

小浦 I 遺跡・小浦 II 遺跡

—中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書—

小浦 I 遺跡・小浦 II 遺跡

—中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書—

二〇二三年三月 公益財団法人 和歌山県文化財センター

2023年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター

小浦Ⅰ遺跡・小浦Ⅱ遺跡

—中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書—

2023年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター



1 (左) 1区西側調査区完掘（南から） (右) 1区東側調査区完掘（北から）



2 2区完掘（北から）

序

小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡が所在する日高郡日高町は、和歌山県のほぼ中央に位置し、北は日高郡由良町、有田郡広川町、南は御坊市・日高郡美浜町と境をなしています。沿岸部は紀伊水道に臨み、温暖な気候から古くから果樹栽培や漁業が盛んにおこなわれています。中世以降は熊野参詣道の紀伊路が通り、高家王子跡をはじめとした王子跡が所在するなど、交通の要所でもありました。

小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡は、日高町小浦に所在する遺跡で、小浦Ⅰ遺跡は奈良時代から鎌倉時代、小浦Ⅱ遺跡は弥生時代の遺跡として知られてきました。昭和58年度及び60年度に県道拡幅事業に伴い、初めて発掘調査が行われています。その際は弥生時代後期から古墳時代初頭の土坑や溝、東西方向に流れる自然流路を検出したほか、弥生時代後期から古墳時代初頭の遺物や中世の土器などが出土しました。今回の調査では、弥生時代末から古墳時代初頭の遺構・遺物が確認され、その中には製塙土器や土錘など、遺跡の性格を明らかとする遺物が出土しました。

本書はその調査成果をまとめた報告書です。県民の皆様のみならず、広く一般の活用に資することができれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本書の作成にあたり、ご指導・ご協力を賜りました関係各位、地元の皆様に対し厚くお礼申し上げます。

令和5年3月10日

公益財団法人 和歌山県文化財センター
理事長 櫻井敏雄

例 言

- 1 本書は和歌山県日高郡日高町小浦に所在する小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備事業に伴うもので、令和3年度に発掘調査を実施し、令和4年度に出土遺物整理を実施した。
- 3 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、和歌山県の委託を受け和歌山県教育委員会指導のもとに、公益財団法人和歌山県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査・出土遺物等整理業務の調査組織は下記の通りである。

事務局長（管理課長事務取扱） 平林 照浩（令和3年度・令和4年度）

埋蔵文化財課長 高橋 智也（令和3年度・令和4年度）

発掘調査・出土遺物等整理業務 濱崎 範子（令和3年度・令和4年度）

- 5 本書の編集・執筆、遺構及び遺物写真の撮影は濱崎が行った。
- 6 出土遺物整理に際し、下記の関係諸機関・諸氏よりご協力・ご教示を得た。記して感謝の意を表す。（氏名五十音順・敬称略）
日高町教育委員会・山口斌
- 7 本事業の遂行にあたり、地元自治会、地域住民の方々から多大なご協力を頂いた。ここにあらためて感謝の意を表す。
- 8 出土遺物は和歌山県教育委員会が保管し、発掘調査及び出土遺物等整理業務において作成した実測図やデジタルデータ、台帳及び写真などの記録資料は公益財団法人和歌山県文化財センターが保管している。

凡 例

- 1 遺構等の土層について記載した土色及び出土遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本彩色研究所監修『新版標準土色帖』（2016年版）に基づいて記録した。
- 2 発掘調査及び出土遺物等整理作業は、『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006. 4）に準拠して行った。
- 3 調査ならびに本書で使用した座標値は、平面直角座標系（平成14年国土交通省告示第9号）第VI系のもので、値はm単位で使用している。図面に使用している北方位は座標北、標高は東京湾標準潮位（T.P）の数値である。
- 4 調査区名・遺構番号は、基本的に発掘調査時のものを踏襲し、遺構番号は調査区ごとに1からの通し番号である。
- 5 遺物図版の縮尺は、原則として1/4とし、石器類は1/2、錢貨は1/1とした。また、遺物写真の縮尺については特に統一していない。
- 6 調査で使用した調査コードは、「調査年度下2桁-市町村コード・遺跡番号」で以下の通りである。出土遺物・記録類はこの調査コードを用い、管理している。

21-26-005・047・059（2021年度-日高町・小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡、小浦城跡）

目 次

本文目次

巻頭図版

序・例言・凡例

第1章 遺跡の位置と環境	5
第1節 地理的環境と歴史的環境	5
第2章 調査の経緯と経過	6
第1節 調査の経緯	6
第2節 発掘調査と普及活動	7
第3節 出土遺物等整理業務	8
第3章 既往の調査成果	8
第1節 既往調査	8
第4章 調査方法	9
第1節 地区割	9
第2節 調査現場の記録作業等	10
第5章 調査の成果	11
第1節 調査概要	11
第2節 基本層序	11
第3節 小浦Ⅰ遺跡の遺構と遺物	11
第4節 小浦Ⅱ遺跡の遺構と遺物	15
第6章 まとめ	23

挿図目次

図1 小浦Ⅰ遺跡・小浦Ⅱ遺跡周辺の遺跡	5
図2 既往調査区位置図（日高町提供地図に加筆）	9
図3 地区割図（日高町提供地図に加筆）	10
図4 調査区位置図（日高町提供地図に加筆）	10
図5 基本層序模式図	11
図6 1区遺構配置図	12
図7 1区弥生時代末から古墳時代初頭の遺構（1）	13
図8 1区弥生時代末から古墳時代初頭の遺構（2）	14
図9 1区下層確認トレンチ土層断面	15
図10 1区遺物包含層の出土遺物	16
図11 2区遺構配置図	17
図12 2区弥生時代末から古墳時代初頭の遺構（1）	19

図 13	2区弥生時代末から古墳時代初頭の遺構（2）	20
図 14	2区遺構出土遺物	21
図 15	2区遺物包含層の出土遺物	21
図 16	2区下層確認トレンチ土層断面	22

表目次

表 1	小浦 I 遺跡・小浦 II 遺跡出土管状土錐一覧	23
表 2	小浦 I 遺跡・小浦 II 遺跡出土遺物観察表（土器・土製品）	25
表 3	小浦 I 遺跡・小浦 II 遺跡出土遺物観察表（石製品）	28
表 4	小浦 I 遺跡・小浦 II 遺跡出土遺物観察表（金属製品）	28

写真図版目次

写真図版 1	1 小浦 I 遺跡調査前（南から）	写真図版 9	1 14土坑土層断面3（南西から）
	2 小浦 II 遺跡調査前（南から）		2 14土坑土層断面4（北東から）
写真図版 2	1 86土坑土層断面（東から）		3 15小穴土層断面（南から）
	2 87土坑土層断面（東から）	写真図版 10	1 16土坑土層断面（南から）
	3 86・87土坑完掘状況（東から）		2 17土坑土層断面（南東から）
写真図版 3	1 98土坑土層断面（東から）		3 18土坑断面1（南西から）
	2 98土坑完掘（東から）	写真図版 11	1 18土坑土層断面2（北東から）
	3 100土坑土層断面（西から）		2 19土坑土層断面（南から）
写真図版 4	1 100土坑完掘（東から）		3 21土坑土層断面（東から）
	2 112・203土坑北壁断面（南から）	写真図版 12	1 14・18・21土坑完掘（東から）
	3 112・203-1土坑完掘（南東から）		2 26土坑 遺物出土状況（西から）
写真図版 5	1 115土坑土層断面（南から）	写真図版 13	3 26土坑 遺物出土状況（北から）
	2 115土坑完掘（東から）		1 26土坑土層断面（南から）
	3 125土坑土層断面（西から）		2 61小穴土層断面（南から）
写真図版 6	1 125土坑完掘（東から）	写真図版 14	3 71土坑土層断面（東から）
	2 126土坑土層断面（東から）		1 2区下層確認トレンチ東壁断面 （南西から）
	3 127土層断面（東から）		2 2区下層確認トレンチ東壁断面 （西から）
写真図版 7	1 126・127土坑完掘（東から）		写真図版 15 出土遺物（1）
	2 1区下層確認トレンチ西壁土層断面 （南東から）		写真図版 16 出土遺物（2）
	3 8落ち状遺構南ベルト土層断面 （南西から）		写真図版 17 出土遺物（3）
写真図版 8	1 8落ち状遺構完掘（北から）		写真図版 18 出土遺物（4）
	2 14土坑土層断面1（南東から）		写真図版 19 出土遺物（5）
	3 14土坑土層断面2（北西から）		写真図版 20 出土遺物（6）

第1章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境と歴史的環境（図1）

小浦I遺跡及び小浦II遺跡が所在する日高郡日高町は紀伊半島西部海岸沿いのほぼ中間点に位置する。北部は日高郡由良町、東部は有田郡広川町に接し、南部は御坊市および日高郡美浜町、西部は紀伊水道に面しており、面積約46.21km²を有する。地形的にみると美浜町との境界である海岸部の南端は白馬山脈が紀伊水道に突き出た突端である日ノ御崎に隣接する。そこから北に隣接している由良町の由良湾に至るまで海岸線は浜部と岩礁部からなるリアス式海岸が続き、良好な漁港が立地している。気候は温暖で平野部では米や野菜を、山間部は果樹の生産が盛んである。

周辺では縄文時代の遺跡は確認されておらず、弥生時代の遺跡としては小浦II遺跡（47）が散布地として知られており、古墳時代の遺跡としては小浦1号墳（3）、小浦2号墳（4）が、南に隣接する比井地区の比井遺跡（8）、比井1号墳（10）、比井2号墳（11）、正行寺山古墳（12）が知られる。

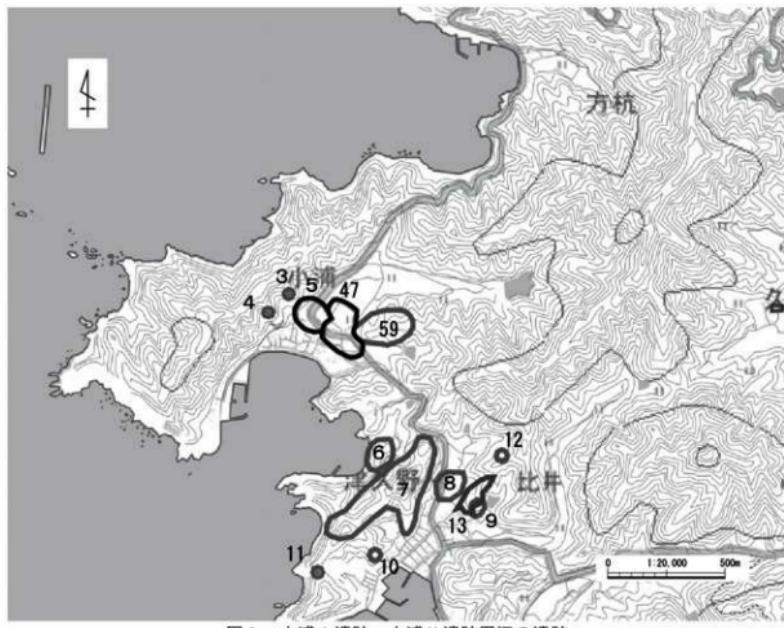


図1 小浦I遺跡・小浦II遺跡周辺の遺跡

- 3. 小浦1号墳 4. 小浦2号墳 5. 小浦I遺跡 6. 津久野遺跡 7. 天路山城跡
- 8. 比井遺跡 9. 比井経塚 10. 比井1号墳 11. 比井2号墳 12. 正行寺山古墳
- 13. 比井王子跡 47. 小浦II遺跡 59. 小浦城跡

※番号は和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図による

和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図

<https://wakayamaken.geocloud.jp/webgis/?z=15&ll=34.225%2C135.166&t=gssi&p=4>

中世以降は熊野参詣道の紀伊路が日高町内を通過することで、町内には高家王子跡を含めた王子跡が複数所在している。陸路のみならず海路においても古くから日高町沖を通る海の参詣道が知られており、比井王子跡（13）や保元3年（1158）の年号を持つ法華経及びその経筒が出土した比井経塚（9）はそれに関連するものである。比井経塚出土品は、「紀伊王子神社経塚出土品」として大正6年、国の重要文化財に指定されている。

室町時代から戦国時代において遺跡周辺は室町幕府の奉公衆で在地領主であった湯河氏もしくは同じく奉公衆で日高地方の在地領主であった玉置氏の勢力下にあったものと考えられる。隣接する比井地区では、湯河氏の城郭と伝えられる天路山城跡（7）が築かれており、湯河氏の城郭としては御坊市丸山に所在する湯河氏の本城とされる亀山城跡に次ぐ規模を誇る。根小屋式城郭であるとみられ、山頂にある天路山城跡の主郭からは紀伊水道を一望することができ、同地が海上交通の要所であったことがうかがえる。現在も主郭のほか土塁や堀切などが現存している。小浦城跡（59）は小浦I遺跡（5）及び小浦II遺跡の東に位置する低丘陵山頂部を中心とする単郭とみられる中世の山城跡で、土塁や腰曲輪が残るがこれまで発掘調査は行われておらず、詳細は不明である。ただし、令和2年度に実施された和歌山県教育委員会（以下、「県教育委員会」という。）の確認調査では北側斜面で白磁皿が表採されており、現在よりも遺跡範囲が北側に広がる可能性が指摘されている。近世においては小浦地区の南に隣接する比井浦・津久野浦は御城米や酒などを運ぶ樽廻船によって栄えた地区として知られている。

小浦I遺跡、小浦II遺跡及び小浦城跡は、日高郡日高町小浦に所在し、由良湾と比井浦の間に位置する小浦湾に面する砂堆の後背湿地から丘陵据部に位置している。現状では丘陵のある北に向かって上がる緩やかな傾斜地となっており、あたりは水田耕作地が広がっている。小浦I遺跡は奈良時代から鎌倉時代の散布地として、小浦II遺跡は弥生時代の散布地として知られる遺跡である。

第2章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯

調査は和歌山県により中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備事業が計画され、事業予定地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地である「小浦I遺跡」、「小浦II遺跡」及び「小浦城跡」内に位置していたことに起因する。

小浦I遺跡及び小浦II遺跡については、これまでに県道拡幅工事に伴い記録保存目的の発掘調査が実施されており、事業予定地においても埋蔵文化財が展開する可能性が高いと判断された。このことにより、埋蔵文化財の保護と事業との円滑な実施を両立する目的で事前に確認調査を実施することとなった。令和2年8月6日付け日農農地第08060001号で和歌山県知事より県教育委員会へ確認調査の依頼があり、令和2年8月11日付け文第04140003号の10で県教育委員会がこれを受諾して、和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課（以下、「県文化遺産課」という。）によって中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備事業に伴う小浦I遺跡、小浦II遺跡及び小浦城跡の確認調査が令和2年9月14日から9月24日までの間の7日間で、計11箇所計約117.81m²の範囲で実施された。

各確認調査の結果、小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡及び小浦城跡範囲内に位置する事業予定地に埋蔵文化財が展開することが明らかとなつたため、令和3年2月16日付け日農農地第02160001号で和歌山県知事から県教育委員会へ文化財保護法第94条第1項の規定に基づく通知がおこなわれた。これに対し令和3年2月24日付け文第04130001号の98で道路、排水路及び掘削等の工事のため埋蔵文化財の現状保存が出来ない範囲においては事前に記録保存のための発掘調査が必要な旨が県教育委員会より和歌山県へ通知された。これにより、県教育委員会の指導のもと、公益財団法人和歌山県文化財センター（以下、「当センター」という。）が本発掘調査を受託することとなった。

この経緯により令和3年度に「中山間総合事業小浦地区ほ場整備事業に伴う小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡及び小浦城跡発掘調査業務」としてこれを和歌山県から当センターが受託して、発掘調査を実施することとなった。

第2節 発掘調査と普及活動

1. 発掘調査

令和3年3月17日付け日農農地第02160001号で和歌山県より県教育委員会に小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡及び小浦城跡発掘調査の依頼があり、令和3年3月19日付け文第03190002号により県教育委員会から当センターに発掘調査業務の実施計画書の提出依頼があつたため、当センターは令和3年3月26日付け文第372号で実施計画書を県教育委員会に提出した。

これを受け、令和3年3月26日付け文第03190002号の2で当センターへ県教育委員会より和歌山県と委託契約を締結するよう依頼があり、令和3年4月13日付け県教育委員会の指導のもと、和歌山県と当センターとで「中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備事業に伴う小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡及び小浦城跡発掘調査業務」の契約を締結した。契約期間は令和3年11月30日までである。

発掘調査は、令和3年6月3日から令和3年9月30までの期間で実施した。なお、発掘調査に伴う工事は「県営中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備事業に伴う小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡及び小浦城跡発掘調査工事」として、高見組に再委託した。調査地は、昭和58、60年度県道拡幅工事に伴う発掘調査地から北寄りの地点にあたり、契約当初の調査面積は878.0 m²であったが、1区を縦断する既設水路及び2区南端のカルバートボックスに隣接する部分は当面存続する必要が生じたことから、県教育委員会と協議の上、今回の調査対象範囲から除くこととなり、最終的に845.7 m²の調査を行うこととなった。

令和3年6月3日より現地での作業を開始した。県文化遺産課による確認調査の成果を参考に、現在の水田耕作土・床土と中世以降の水田耕作土までを機械掘削とし、それ以下について人力掘削とした。調査対象地の遺構面は1面である。調査では、全て調査員・調査補助員で平・断面図を作成した。1区及び2区は調査記録作業終了後に重機による埋め戻しを行い、令和3年9月30日に現地での調査を終了した。

2. 普及活動

調査期間中の令和3年9月15日から17日には、調査成果を広く周知するため、現地公開を実施した。最終日である17日は雨天で現地作業が休止となったため、地元自治会の協力のもと、

小浦地区の公民館の一室を使用し、出土遺物等の説明を実施した。現地公開には近隣住民を中心に20名に参加いただいた。

第3節 出土遺物等整理業務

1. 出土遺物応急整理

出土遺物については、時期決定を行い、調査方法の判断資料とするため当センター事務局整理棟において応急的な洗浄作業を実施し、出土遺物台帳の作成作業を実施した。また、現場で撮影した中判デジタルカメラ及び35mmフルサイズデジタルカメラのRAWデータはリネーム後、適切なデジタル現像を行い、TIFFデータに書き出して保管した。現地調査の遺構等の記録図面は、地区別・図面種別などの区分を行い図面ファイルに収め、応急的な整理を実施した。

2. 出土遺物等整理業務

当センターが令和3年度に実施した小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡及び小浦城跡の発掘調査で出土した出土遺物について、令和4年度に出土遺物整理業務を実施した。なお、発掘調査では小浦城跡とみられる遺構・遺物は確認できなかったため、業務名を「小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡出土遺物等整理業務」として和歌山県より受託した。

報告書作成に伴う出土遺物整理業務は発掘調査で出土した遺物全点を対象に行った。遺物の登録・注記・接合・補強・復元・実測等の一連の作業を行うとともに現地で記録した遺構実測図の調整を行い、遺物実測図の作成と共にデジタルトレース作業を実施し、これらを組版して図面原稿を作成した。調査現場で撮影した遺構写真等について整理を行い、報告書掲載の遺物写真を撮影した。遺物写真と遺構写真の組版を行い写真図版を作成した。

また、遺物観察表を作成した。これらの作業を踏まえて原稿執筆を行った。

業務は令和4年9月から実施し、一時作業の中断を経て、令和5年3月に本書を刊行するに至った。



写真1 遺構掘削



写真2 遺物実測

第3章 既往の調査成果

第1節 既往調査（図2）

小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡は、昭和58年度及び60年度に社団法人和歌山県文化財研究会によって県道拡幅に伴う記録保存目的の発掘調査が実施されており、弥生時代後期から古墳時代初頭の

遺構面から土坑、溝などが検出されている。また、遺物は弥生時代後期から古墳時代初頭、鎌倉時代の時期のものが確認されている。

既往調査は昭和 58 年度に A、B、C（C-E、C-W）区と、E-1、E-2 地点で、昭和 60 年度に C（C-2）、D 区で実施されている。調査区の東端に位置する A 区の調査でのみ、弥生時代後期から古墳時代初頭の遺構面のほか、中世とみられる遺構面が検出されており、調査区南部を東西に延びる自然流路を検出している。



図 2 既往調査区位置図（日高町提供地図に加筆）

第4章 調査方法

第1節 地区割（図3・4）

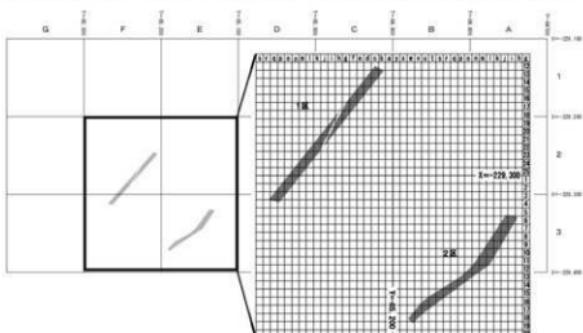
調査区の地区割は、平面直角座標系（平成 14 年国土交通省告示第 9 号）第 VI 系を使用し 3 つの遺跡を網羅する北東に基点（X = -229,100 m, Y = -84,700 m）を設け、その点から南西に向かって大区画・小区画を設けて区割を行った。大区画は基点を A 1 地点と定めて、西方向へ 100 mごとに B、C、D …、南方向に 2、3、4 …という軸を設定した 1 辺 100 m四方の区画で、北東隅の地区名を用いて A 1、C 3 などと呼称する。大区画の北東隅を a 1 地点として、そこから 4 mずつ西方向へ b ~ y、南方向へ 2 ~ 25 とそれぞれの方向に 25 分割し、一辺 4 m の正方形区画を小区画とする。小区画は北東隅の地区名から a 1 区 ~ y 25 区と呼称する。地区名は、大区画 - 小区画（A 1 - a 1 区など）で表す。今回の調査区は、大区画で 1 区（小浦 I 遺跡）は F 2、F 3、2 区（小浦 II 遺跡）は E 3 の範囲内に位置する。

発掘調査は、遺物包含層より上を建設重機による機械掘削で、包含層以下を人力掘削で進めた。また、状況に応じ、遺構面以下の遺構・遺物の有無や遺構面形成の状況を把握するために下層確認トレンチを設定して土層堆積状況を確認した。

第2節 調査現場の記録作業等

小浦I遺跡、小浦II遺跡及び小浦城跡の調査に伴い、下記に示す記録作業等を行った。

記録は、写真撮影と実測図面作成を行った。写真撮影については、中判デジタルカメラ及び記録用の35mmフルサイズデジタルカメラを使用し、デジタル画像データ（RAWデータ及びJPEGデータ）には全てファイルごとに撮影内容を記載して保存している。記録図面は、縮尺1:20の遺構実測図（遺構平面図・断面土層図）及び遺構位置全体図を作成した。また、1区は調査区内の



うち既設水路の西側は西壁、東側は東壁断面図を、2区は東壁断面を基本とし、必要に応じて各壁面に対して断面土層図などを記録として作成した。

図3 地区割図（日高町提供地図に加筆）

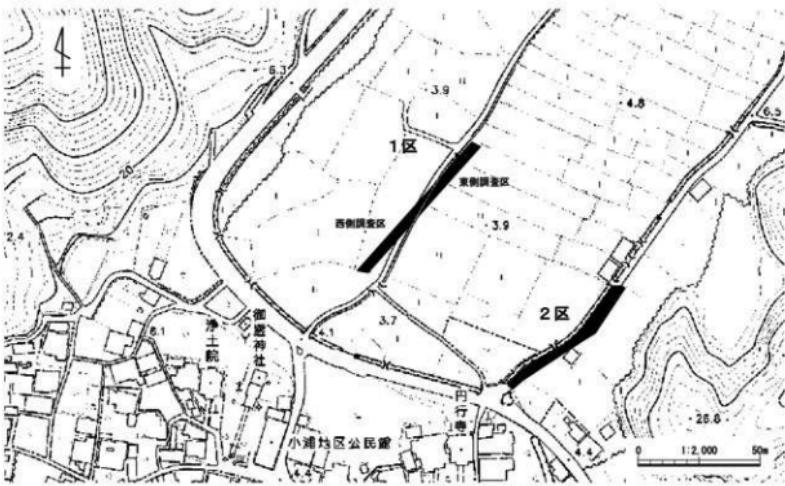


図4 調査区位置図（日高町提供地図に加筆）

第5章 調査の成果

第1節 調査概要（巻頭カラー1・写真図版1）

調査区は小浦Ⅰ遺跡内の1区と小浦Ⅱ遺跡内の2区に分かれ、工程の都合上2区から調査を行った。なお、当初小浦Ⅱ遺跡東側に隣接する小浦城跡の遺構や遺物が出土する可能性も考えられたが今回の調査区では小浦城跡の遺構や遺物は確認できなかった。

検出した遺構は、弥生時代末から古墳時代前期のものである。1区南端部において古代以降の土器や中世以降の陶器を含む自然流路の可能性のある土層を確認している。

第2節 基本層序（図5）

第1層は現代の水田耕作土、第2層は現代の水田耕作土に伴う床土である。第3層は弥生時代から中世の遺物を含む遺物包含層である。中世の遺物が多く、土層の形成時期は中世以降と考えられる。第4層は弥生時代から古代の遺物を含む遺物包含層である。第1から第4層までは中世以降水田耕作土として使用されていたと考えられる。第5層は明黄褐色のシルトを多く含む基盤層である。無遺物層であり、第5層上面で、弥生時代末から古墳時代前期の遺構面を形成している。このほか、1区南端部や2区南部では自然流路や土石流の痕跡を確認した。

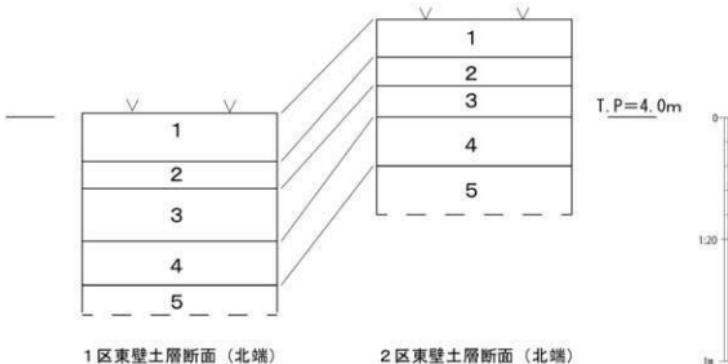


図5 基本層序模式図

第3節 小浦Ⅰ遺跡の遺構と遺物（図6～9 写真図版1～7、15～17）

小浦Ⅰ遺跡の調査区は既設水路を挟み西側調査区と東側調査区に分けて実施した。土坑、小穴を多数検出したものの、いずれの遺構の遺存状況は非常に悪く、遺構から出土する遺物は細片かつ少量である。しかし包含層出土遺物や小浦Ⅱ遺跡との基本層序の比較などから遺構面の年代はおおむね小浦Ⅱ遺跡と同時期で弥生時代末から古墳時代初頭と考えられる。

【遺構】

86 土坑（図7、写真図版2） 1区西側調査区南部で検出した土坑で、平面形状は歪な方形もしくは梢円形を呈し、重複関係から87土坑より古いと考えられる。長軸1.08m、検出短軸0.68m、

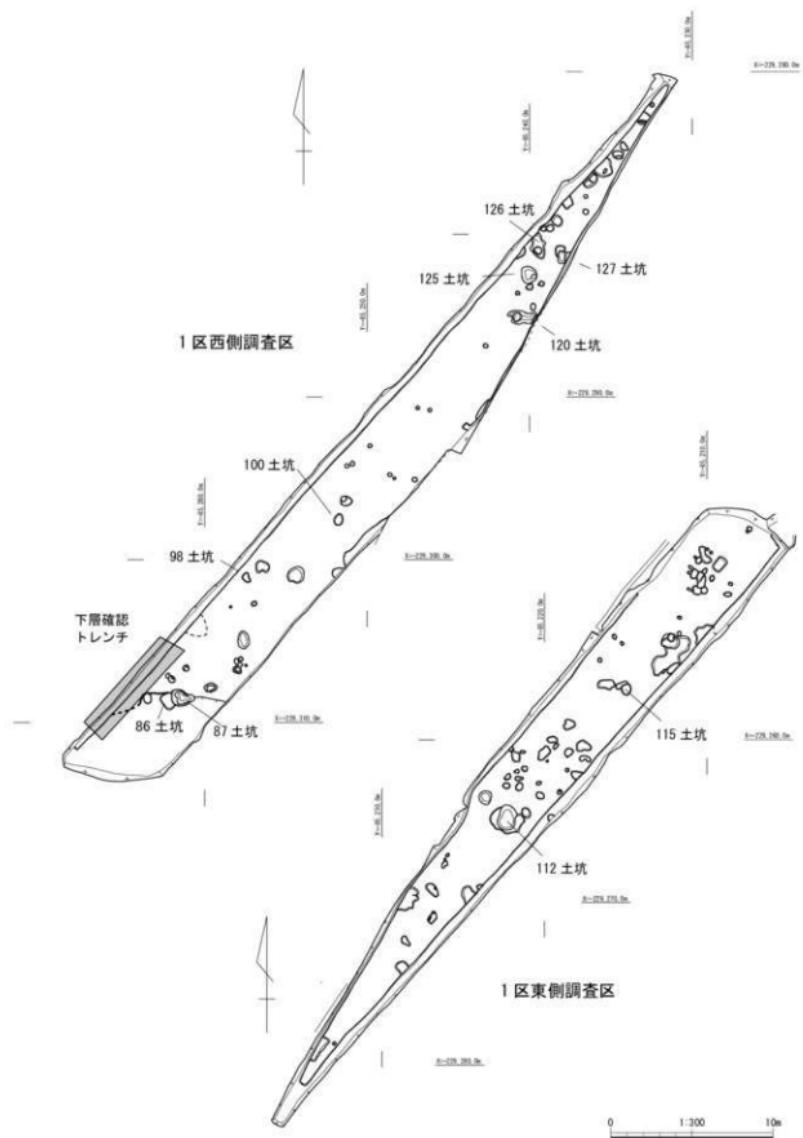


図 6 1区遺構配置図

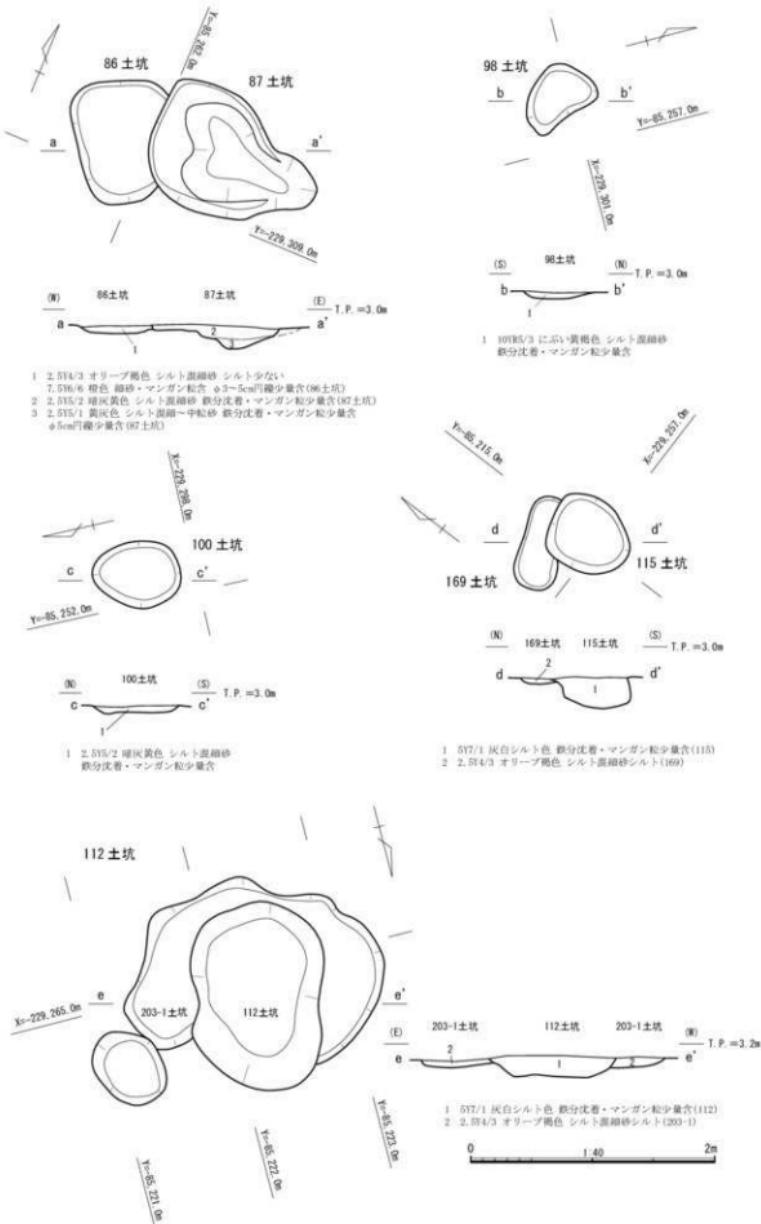


図7 1区弥生時代末から古墳時代初頭の遺構 (1)

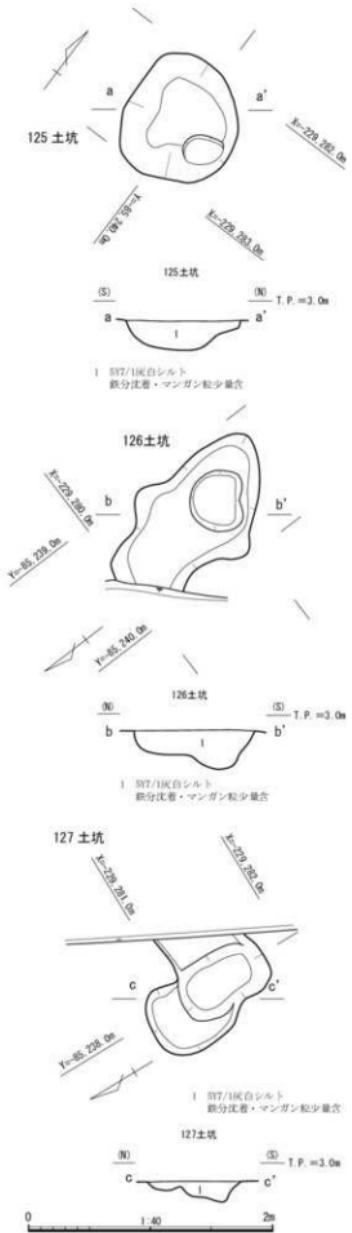


図8 1区弥生時代末から古墳時代初頭の
遺構(2)

深さ 0.06 m、断面は緩やかな船底形である。出土遺物は土師器細片がある。

87土坑(図7、図版2) 1区西側調査区南部で検出した土坑で、平面形状は歪な楕円形を呈し、遺構の重複関係から86土坑よりも新しいと考えられる。長軸 1.44 m、短軸 1.00 m、深さ 0.20 m、断面は逆三角形状で埋土は2層に分かれる。出土遺物は古代以降の土師器片や瓦器片があり、後世に削平され、遺構面としては遺存していないが、基本層序第4層上面から掘り込まれた遺構の可能性がある。

98土坑(図7、写真図版3) 1区西側調査区南部で検出した土坑で、平面形状は歪な楕円形を呈する。長軸 0.60 m、短軸 0.44 m、深さ 0.04 m、断面は緩やかな船底形である。出土遺物は土師器細片がある。

100土坑(図7、写真図版3・4) 1区西側調査区南部で検出した土坑で、平面形状は楕円形を呈している。長軸 0.72 m、短軸 0.56 m、深さ 0.04 m、断面は緩やかな船底形である。出土遺物は土師器片がある。

112土坑(図7、写真図版4) 1区東側調査区中央部で検出した土坑で、遺構の重複関係から203-1土坑より新ないとみられる。平面形状はやや歪な楕円形を呈し、長軸 1.52 m、短軸 1.08 m、深さ 0.16 mで断面は船底形を呈する。

115土坑(図7、写真図版5) 1区東側調査区中央部で検出した土坑で、遺構の重複関係から169土坑より新ないとみられる。平面形状は楕円形を呈しており、長軸 0.68 m、短軸 0.60 m、深さ 0.24 m、断面は歪な方形である。出土遺物はない。

125土坑(図8、写真図版5・6) 1区西側調査区北部で検出した土坑で、平面形状は円形で長軸 1.04 m、短軸 0.92 m、深さ 0.24 m、断面は歪な船底形を呈する。出土遺物は土師器の細片がある。

126土坑(図8、写真図版6・7) 1区西側調査区北西部で検出した土坑で、一部は調査区外北へ延びる。平面形状は不整形な楕円形で検出長軸は

1.44 m、短軸 1.04 m、底部が一部掘り下げられており、深さは 0.32 m である。出土遺物はなかった。

127 土坑（図 8、写真図版 6・7）1 区西側調査区北部で検出した土坑で、平面形状は不整形な梢円形で検出長軸は 1.44 m、短軸 1.04 m、底部が一部掘り下げられており緩やかな段を形成している。深さは 0.16 m である。出土遺物はなかった。

1 区下層確認トレンチ（図 9、写真図版 7）1 区南端に北東－南西方向に遺構面下の土層を確認するために設定した。遺構面が形成される以前にも自然流路とみられる円碟・角碟を多量に含む土層（図 9-14 層）があり、更にそれとは別の自然流路とみられる土層（図 9-6 層）上に遺構面が形成されている。この遺構面形成前の自然流路の上部に非常に薄い堆積ではあるが、再度自然流路の堆積土とみられる土層（図 9-3 層）があり、採取した遺物から遺構面上に旧流路が流れていたのは古代から中世にかけてとみられ、旧流路は東西方向に流れていたと考えられる。

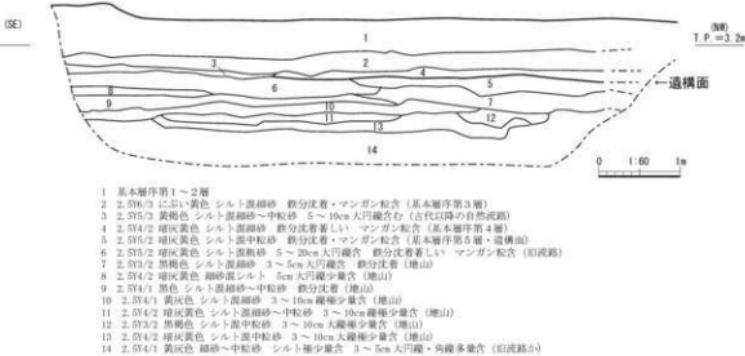


図 9 1 区下層確認トレンチ土層断面

【I 区遺物包含層中の出土遺物】（図 10、写真図版 15～17、20）

小浦 I 遺跡において遺物包含層より出土した遺物は以下の通りである。

東海地方からの搬入とみられる弥生土器（1）である。弥生時代末から古墳時代初頭の土師器の鉢（2）、脚台皿式とみられる製塙土器（3）、古墳時代後期から古代の遺物として須恵器坏身（4）、甕（5）、中世の遺物として、瓦器椀（6～12）、皿（13・14）、瓦質土器擂鉢（15・16）、土師器皿（18）、堀（19）、備前焼擂鉢（17）、中国製青磁碗（20～22）、中国製白磁（23）などがある。また、土錘が多く出土しており、有溝土錘（24・25）、管状土錘（26～39）の 2 種が出士している。

土器・土製品以外では時期不明だが小型の砥石とみられる石製品（S-1）、中国（北宋）製の「元佑通寶」（M-1）があり、外縁部を人工的に削られているがその具体的な理由は不明である。

第4節 小浦 II 遺跡の遺構と遺物（図 11～15、写真図版 7～14、17～20）

小浦 II 遺跡において、調査区中から北部に遺構が集中し、南半部は土石流とみられる土層の堆積を確認している。遺構の遺存状況は小浦 I 遺跡と同じく良くない。

【遺構】

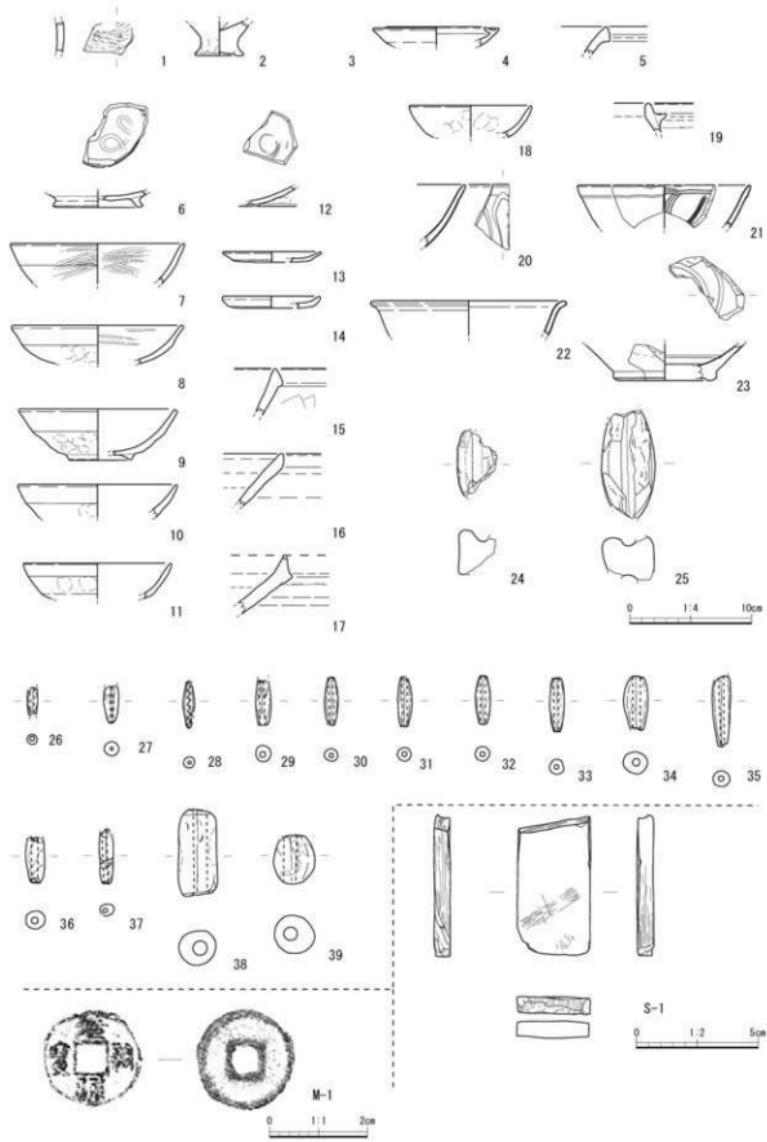


図 10 1区遺物包含層中の出土遺物

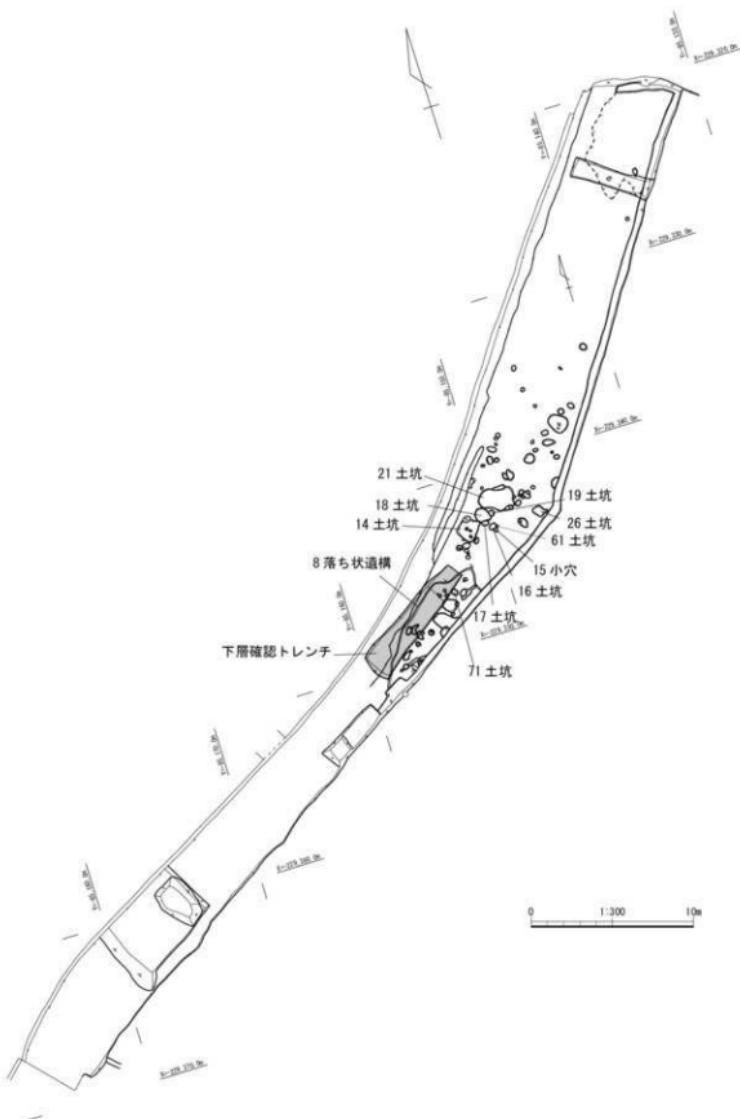


図 11 2 区遺構配置図

8落ち状遺構（図12・14、写真図版7・8、17） 2区のほぼ中央部東壁際で確認した落ち状の遺構で、検出長は8.96m、検出幅2.48m、深さ約0.12mである。溝の可能性も残るが、遺構断面の底部が不整形であることから落ち状遺構とした。出土遺物は他の遺構に比べ多く、土師器甕(40)、脚台式の製塩土器(41～44)、棒状土錘(45)などがあり、遺構の年代は弥生時代末から古墳時代初頭とみられる。埋土の上層や下層から掘り込まれる土坑や小穴が多くあるが、後述の71土坑などそれぞれの遺構出土遺物と時期差があまりないことから、8落ち状遺構は短期間で埋没したと考えられる。

【土坑・小穴】

14 土坑（図13・14、写真図版8・9、17） 2区のほぼ中央で検出した土坑で、遺構の重複関係から後述の18土坑よりも新しいとみられる。平面形状はやや歪んだ方形で、長軸1.44m、短軸1.20m、深さ0.08mで断面は緩やかな船底形を呈する。出土遺物は土師器甕(46)、甕(47～49)、製塩土器とみられる薄手の口縁部(50)があり、弥生時代後期後半から古墳時代初頭とみられる。

15 小穴（図13、写真図版10） 2区のほぼ中央で検出した土坑で、重複関係から16土坑より古い。平面形状は楕円形で径0.40m、深さ0.08mで断面は船底形を呈する。出土遺物は土師器細片がある。

16 土坑（図13、写真図版10） 2区のほぼ中央で検出した土坑で、重複関係から61小穴よりも古く、15小穴よりも新しいとみられる。平面形状はやや歪な方形で、長軸0.44m、短軸0.36m、深さ0.12mで、断面は歪んだ台形状である。出土遺物は土師器細片がある。

17 土坑（図13、写真図版10） 2区のほぼ中央で検出した土坑で、重複関係から18土坑よりも新しいとみられる。平面形状は楕円形で、長軸0.48m、短軸0.30m、深さ0.06mで断面は緩やかな船底形を呈する。出土遺物は土師器細片がある。

18 土坑（図13・14、写真図版10・17） 2区のほぼ中央で検出した土坑で、重複関係から14土坑、17土坑よりも古く、19土坑よりも新しいとみられる。平面形状はやや歪んだ方形を呈し、一辺0.84m、深さ0.08mで、断面は緩やかな船底形を呈する。埋土は2層に分層でき、2層からは骨片、炭化物がわずかに出土している。骨片が出土したことから土壙墓の可能性があるが、骨片は風化が進んでおり種別を判断できない。出土遺物は土師器甕(51)、甕(52)、脚台式の製塩土器(53・54)で、古墳時代初頭とみられる。

19 土坑（図13、写真図版11） 2区のほぼ中央で検出した土坑で、重複関係から18土坑より古いとみられる。平面形状は楕円形を呈するとみられ、検出長軸0.36m、短軸0.28m、深さ0.12mで、断面はやや歪んだ台形状である。出土遺物はない。

21 土坑（図13、写真図版11・12） 2区のほぼ中央で検出した土坑で、重複関係から23小穴よりも新しく、20土坑、22土坑よりも古いとみられる。平面形状は歪んだ方形を呈し、長軸2.20m、短軸1.28m、深さ0.12mで、断面は長方形状である。出土遺物は土師器細片がある。

26 土坑（図13・14、写真図版12・13・18） 2区のほぼ中央東壁付近で検出した土坑で、平面形状は歪んだ円形を呈し、長軸1.00m、短軸0.62m、深さ0.05mで断面は船底形を呈する。多くの土器片が出土し、少なくとも7個体以上の土師器、製塩土器が出土しているが、実測でき

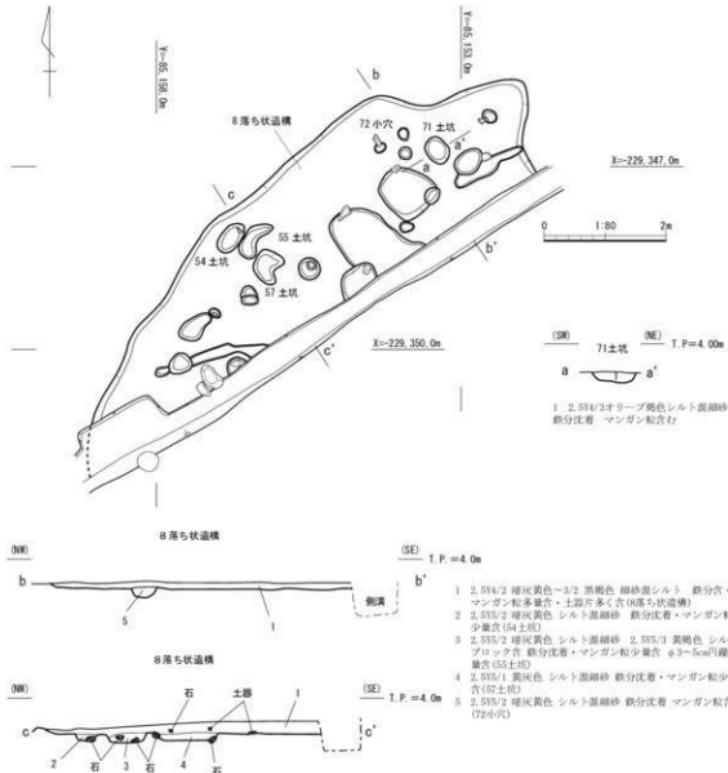
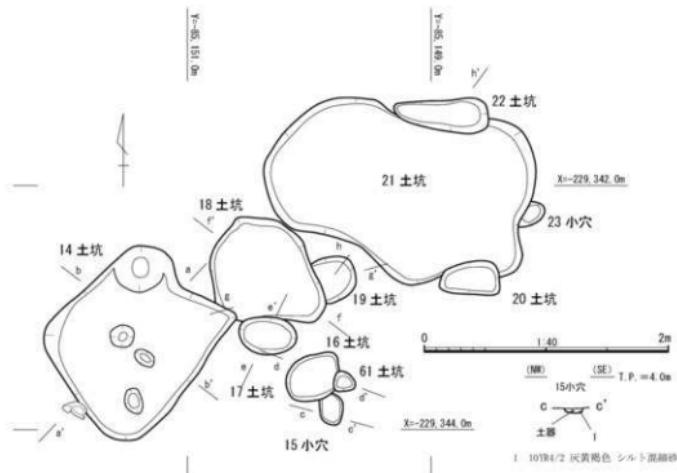


図 12 2区弥生時代末から古墳時代初頭の遺構 (1)

たものはほとんどない。土師器壺(55)が出土しており、古墳時代初頭から前期の遺構とみられる。61小穴(図13、写真図版13) 2区のはば中央で検出した土坑で、遺構の重複関係から、16土坑より新しいと考えられる。平面形状は歪んだ円形を呈し、径0.16m、深さ0.04mで、断面は緩やかな船底形を呈する。出土遺物は土師器細片が1点である。

71土坑(図12・14、写真図版13・18) 落ち状遺構8の下面で検出した土坑で、平面形状が梢円形で長軸0.44m、短軸0.16m、深さ0.08mである。出土遺物は土師器壺(56)で古墳時代初頭とみられる。

2区下層確認トレンチ(図16、写真図版14) 2区中央に北東-南西方向に向けて遺構面下の土層堆積を確認するためにトレンチを設定した。遺構面下には円礫を多く含む土層(図16-2・3層)が1.0m以上堆積しており、土石流の痕跡と考えられる。2区南半部には遺構面が存在せず、基本層序第2層である床下で同様の円礫を多量に含む土層を確認したことから調査区南半部は



1 10W4/2 灰黄色 シルト混細砂 ややシルト多い
鉄分沈着
2 5W5/2 増灰黄色 シルト混細砂 W4/1灰色 シルトブロック含
鉄分沈着 マンガン粒少量含
3~15mm大円礫極少量含

1 10184/2 灰黄褐色 シルト混細砂
のむらさき

(SW) 17土坑 (NE) T.P. = 4.0m

 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト混粘砂
 20.5×10^3 $\text{kg} \cdot \text{m}^{-2}$ $- \rightarrow - \rightarrow$ 10.5×10^3 $\text{kg} \cdot \text{m}^{-2}$

1 10YR5/2 黒褐色 シルト混細砂
鉄分沈着 マンガン粒少量含
2 2.5Y4/2 嗜灰黄色 シルト混細砂モザイクシルト多
鉄分沈着 マンガン粒少量含(骨片出土)
炭化物類少含

2.5V/2.暗灰黄色 シルト混砂
地に淡紫、シーブルの色味。

1 2.5V/2 喷灰黄色 シルト混細砂
鉄分沈着 マンガン粒少量含
2 5V4/2 喷灰黄色 シルト混細砂
鉄分沈着 マンガン粒極少量含

| E5Y4/2 緩灰黄色 シルト混細砂
颗粒分沈着 マンガン鉱・炭化物含

造物番号 55 (図 14)

図 13 2 区弥生時代末から古墳時代初頭の遺構 (2)

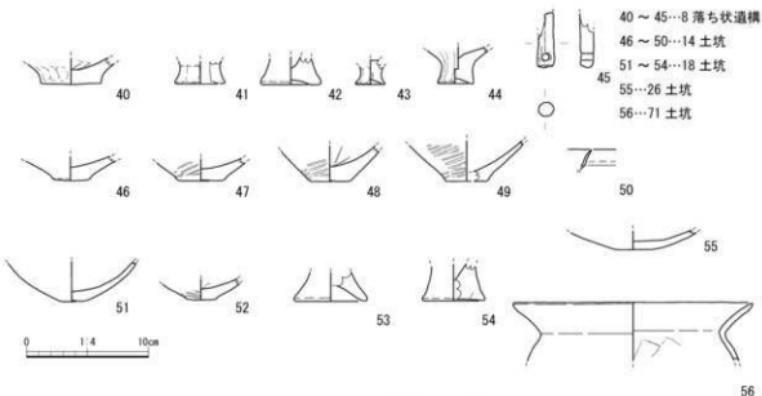


図 14 2 区遺構出土遺物

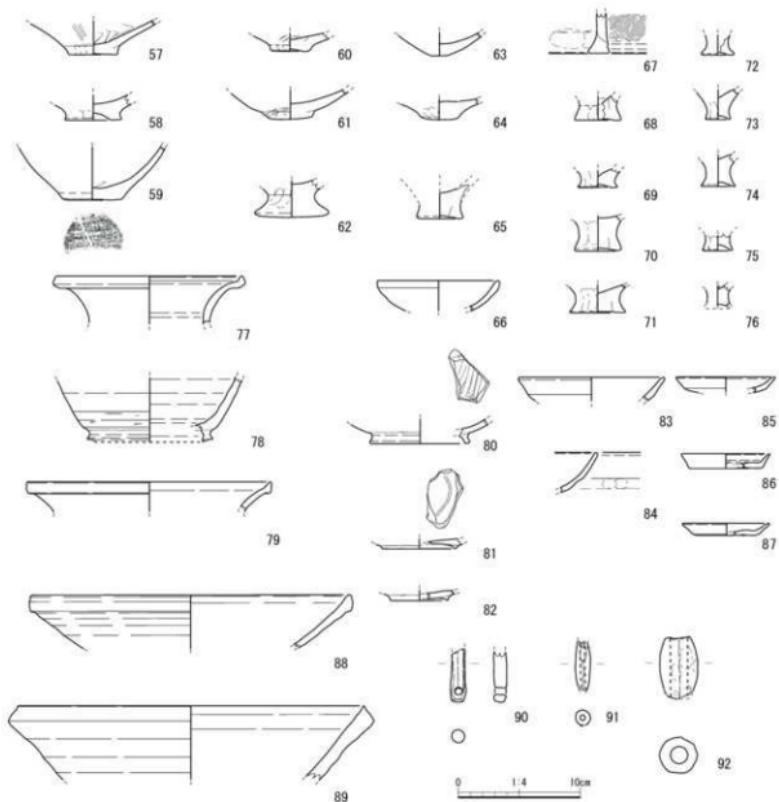


図 15 2 区遺物包含層の出土遺物

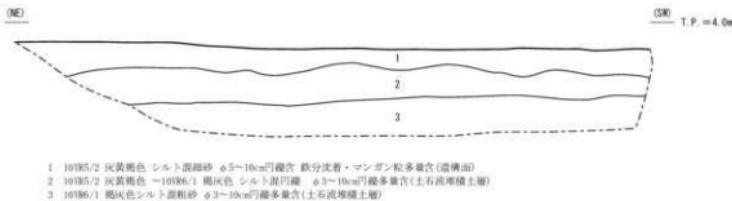


図 16 2 区下層確認トレント土層断面

旧自然流路であったと考えられる。この土層上部からごくわずかに須恵器片などの遺物が確認できたことから、2区の南半部では造構面形成以前に存在していた自然流路に大規模な土石流が発生し、また造構面が形成された後にも再度土石流が同じ自然流路で発生したことによって、旧自然流路が埋没してしまったと考えられる。

【2区遺物包含層中の出土遺物（図 15、写真図版 18～20】

小浦 II 遺跡における遺物包含層出土遺物は以下の通りである。

弥生時代後期から末の弥生土器壺（57・58）で、57は河内地域からの搬入品とみられる。弥生時代後期末から古墳時代初頭の土師器（59）は壺と思われ、底部に繩痕状のものが残る。古墳時代初頭の土師器甕（60・61）、鉢（62・63）、古墳時代初頭から前期の土師器壺（64）、鉢もしくは脚台式の製塙土器とみられるもの（65）、器台もしくは高杯とみられるもの（66）、古墳時代のものとみられるかまどの一部（67）がある。また、弥生時代末から古墳時代初頭とみられる製塙土器（68～76）が多数出土している。

古代以降の遺物として、須恵器壺（77・78）、甕（79）、中世以降の遺物として瓦器椀（80～84）、皿（85～87）、東播系須恵器の片口こね鉢（88）、備前焼擂鉢（89）がある。

土製品として土錘が出土しており、棒状土錘（90）や管状土錘（91・92）の2種に分けることができる。

第6章 まとめ

今回の調査では、小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡とともに堅穴建物跡など集落の中心となる遺構を確認することができなかった。遺構面は水はけの悪いシルトを多く含む土層であり、居住空間としては適切ではなかったと考えられる。現在の小浦区の集落の中心地は調査地よりも南に位置しており、小浦湾が形成した砂堆上に位置している。弥生時代末から古墳時代初頭にかけての集落の中心地も同様であった可能性が高い。

また、今回の調査では遺構・包含層より一定数の製塩土器、土錘が出土した。製塩土器は脚台Ⅲ式もしくはIV式とみられるものが多数を占めるが(富加見2007)、I式・II式も極少量確認した。出土した製塩土器は外部にピンク色の二次焼成痕が残るものがあり、両遺跡内で製塩活動が行われたものと考えられるが、今回の調査地では製塩炉等の生産遺構は確認できなかった。集落の中心地もしくはより海岸線に近いところで製塩が行われていたとみられる。

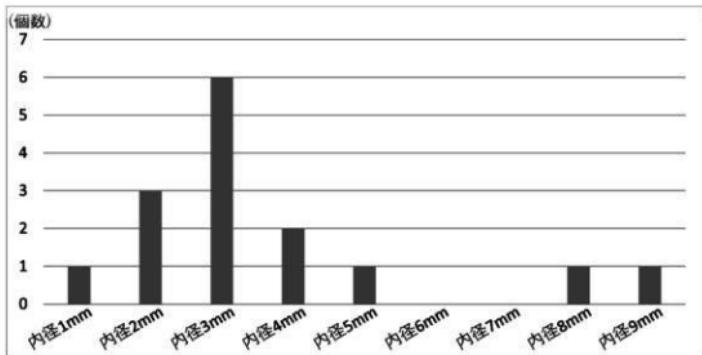
出土した土錘は、棒状土錘・管状土錘・有溝土錘の3種がある。破片も含めると大半は管状土錘であり、報告書に掲載したものは計20点である。このうち管状土錘16点を分析したところ(表

報告書番号	器種	法量(cm)		重量(g)	想定重量(g)	保存率(%)	内径mm	備考
		径	全長					
26	製塩土錘	0.8×0.8	2.4+	1.44	2.88	50%	3	
27	製塩土錘	1.2×1.2	3.1+	3.52	7.04	50%	1	
28	製塩土錘	0.9×0.9	3.7	1.98	2.48	80%	2	
29	製塩土錘	1.3×1.4	3.7+	5.18	5.76	90%	4	指圧痕あり、粘土巻き付け痕残る
30	製塩土錘	1.1×1.1	3.9	3.69	3.88	95%	2	
31	製塩土錘	1.1×1.1	4.1	4.40	4.63	95%	3	
32	製塩土錘	1.2×1.2	4.1	4.35	4.44	98%	3	
33	製塩土錘	1.2×1.2	4.4	6.15	6.15	100%	3	
34	製塩土錘	1.8×2.0	4.5	13.93	14.66	95%	5	
35	製塩土錘	1.3×1.4	5.8+	9.28	11.6	80%	2	
36	製塩土錘	1.5×1.5	3.8+	8.67	12.39	70%	4	
37	製塩土錘	1.0×1.2	4.5+	4.74	5.27	90%	3	
38	製塩土錘	2.8×3.0	7.1	67.00	67.00	100%	9	
39	製塩土錘	3.1×3.3	4.0	35.03	36.87	98%	8	
91	製塩土錘	1.24×1.2	4.0+	5.09	5.66	90%	3	
92	製塩土錘	3.0×3.1	5.2	37.69	47.11	80%	10+	

表1 小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡出土管状土錘一覧

1・グラフ1)、一部を除き全長10cm未満、実際に内径に差し込むことのできる網の直径は3mmの比較的小型のものが多いことが判明した。紀伊水道から外洋に出て行う漁ではなく、小浦湾内での刺し網などの用途を想定したい。また、弥生時代末から古墳時代初頭の小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡では大型土錘が必要となる地引網等の漁法は積極的に行われなかつた可能性が高い。

日高郡北部の海浜部は日高郡由良町大引遺跡、衣奈遺跡など古代において製塩が盛んに行われていたことが知られているが、その本格的な開始時期についてはこれまで不明な点が多くあった。今回小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡の調査成果から、弥生時代末から古墳時代初頭には同遺跡で本格的に製塩が開始されていたと考えることができる。一方で小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡より南に位置する日高郡美浜町三尾遺跡で過去に表採された製塩土器の中には、今回の調査で出土した製塩土器よりもやや古いとみられるものも出土している(註1)ため、日高郡北部沿岸における本格的な製塩活動の開始は小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡よりもやや早く開始する可能性を指摘しておきたい。



グラフ1 小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡出土管状土錘の内径比較

【註】

註1 山口斌氏收集資料による。

【参考文献】

- 富加見泰彦 2007 「紀伊における海人集団の動向」『古墳時代の海人集団を再検討する—「海の生産用具」から20年』埋蔵文化財研究会
 『平成30年度 秋期特別展 黒潮の海に糧を求めて 古墳時代の海の民とその社会』2018
 和歌山県立紀伊風土記の丘

表2 小浦I遺跡・小浦II遺跡出土遺物観察表（土器・土質品）

監査番号	登録番号	地区	遺構	種類	器種	法量(cm)			重さ(g)	保存率(部位)	地土	焼成	色調	備考
						口径	高さ	底径						
1 写真 番号 15	161	1区 東側	耕土	生糞土器 (廻入)			2.5+			SAD以下	密 細かい白色砂 粒少量	良好	内面:オリーブ黒 外断面:灰	
2 写真 番号 15	162	1区 西側	耕土	土師器	鉢	-	2.7+	G.8)		SAD以下	密 細かい赤色酸 化粒少量	良好	内外面にぶい粒 断面:褐灰	一部反転復元
3 写真 番号 15	144	1区 東側	機械削除 2~3層	製陶土器	-	-	1.0+	2.0		底部 95%	密 細かい赤色酸 化粒微量	良好	外面:淡赤橙 断面:浅黄灰	一部反転復元
4 写真 番号 15	178	1区 東側	5層以上	須恵器	壺身	(8.0)	1.6+	-		SAD以下	密 1mm以下の石 英+チャート少量	軟	内面:灰白 外断面:灰白 断面:灰白	反転復元
5 写真 番号 15	154	1区 東側	北ベルト 3~4層	須恵器	壺身	-	2.3+	-		SAD以下	密 細かい白色砂 粒少量	良好	内外断面:灰	
6 写真 番号 15	193	本路西側 約3m	87	瓦器	板	-	1.3+	(6.6)		2区 (高台)	密 細かい白色砂 粒中量	やや軟	内面:灰 外断面:灰 断面:にぶい粒	反転復元
7 写真 番号 15	158	1区 西側	人力削除 3~4層	瓦器	板	(14.2)	3.4+	-		SAD以下	密 細かい白色砂 粒中量	良好	内面:灰 外断面:灰 断面:灰白	反転復元
8 写真 番号 15	208	1区 東側	東壁 崩落土	瓦器	板	(13.8)	3.2+	-		10% (口縁部)	密 細かい白色砂 粒微量	良好	内面:暗灰 外断面:灰 断面:灰白	反転復元
9 写真 番号 15	180	1区 東側	(消卻) 崩落	瓦器	板	(13.0)	2.7+	-		SAD以下	密	良好	内面:灰 外断面:暗灰 断面:灰白	反転復元
10 写真 番号 15	146	1区	人力削除 3~4層	瓦器	板	(12.8)	4.2	(5.2)		50%	密 細かい赤色酸 化粒少量	やや軟	内面:暗灰 外断面:にぶい粒	一部反転復元
11 写真 番号 15	161	1区 東側	耕土	瓦器	板	(12.0)	2.9+	-		SAD以下	密	良好	内面:暗灰 外断面:黄灰~灰白 断面:暗灰	反転復元
12 写真 番号 15	211	1区 東側	東壁 崩落土	瓦器	板	-	1.6+	-		SAD以下	密 1mm以下の石英 微量	やや軟	内面:灰 外断面:灰 断面:にぶい粒	
13 写真 番号 15	159	1区 西側	人力削除 3~4層	瓦器	皿	(8.0)	0.9	(6.5)		20%	密	良好	内面:灰 外断面:灰 断面:灰白	反転復元
14 写真 番号 15	159	1区 西側	人力削除 3~4層	瓦器	皿	(7.8)	1.0	(6.7)		SAD以下	密	良好	内面:灰 外断面:灰 断面:灰白	反転復元
15 写真 番号 15	159	1区 西側	人力削除 3~4層	瓦質土器	縦縫	-	3.8+	-		SAD以下	密 1mm位の石英, チャート中量	やや軟	内面:にぶい粒~灰 白 外面:にぶい粒~暗 灰~灰白 断面:灰白	
16 写真 番号 15	173	1区 西側	2~4層	真實土器	縦縫	-	4.3+	-		SAD以下	密 1~2mm位の赤 色酸化粒少量	軟	内面:板 外面:赤粒 断面:板~にぶい粒	
17 写真 番号 16	143	1区	機械削除 2~3層	備前	横縫	-	4.8+	-		SAD以下	密 1mm以下~1mm 位の石英少量	良好	内面:灰 断面:灰~青灰	
18 写真 番号 15	159	1区 西側	人力削除 3~4層	土師器	皿	(10.0)	2.6+	-		10% 20%	密	良好	内面:灰白~淡 青 外断面:淡黄 断面:淡灰	反転復元
19 写真 番号 15	159	1区 西側	人力削除 3~4層	土師器	壠	-	2.4+	-		SAD以下	密 1mm以下~2mm 位の赤色酸化粒少 量 細かい白色砂粒 中量	良好	内面:板 外断面:板~褐 灰 断面:板	
20 写真 番号 16	155	1区 東側	人力削除 3~4層	中国製 青磁	碗	-	5.2+	-		SAD以下	密	良好	輪:オリーブ灰 断面:灰白	
21 写真 番号 16	161	1区 東側	耕土	中国製 青磁	碗	(14.0)	3.5+	-		SAD以下	密	良好	輪:灰 断面:灰白	反転復元
22 写真 番号 16	142	1区西側	機械削除 2~3層	中国製 青磁	碗	(15.7)	2.9+	-		SAD以下	密	良好	輪:灰(ごる) 断面:灰白	反転復元
23 写真 番号 16	164	1区 西側	人力 3~4層 (包含層)	中国製 白磁	碗	-	3.0+	(8.6)		SAD以下	密	良好	輪:灰白 底胎:灰白 断面:灰白	反転復元
24 写真 番号 16	158	1区 西側	人力削除 3~4層	土製品	有溝土器	(幅) 5.4+	(長さ) 3.0+	(厚さ) 3.6	(42.80)	30%?	密 1~2mmのチリ 微量細かい赤色 酸化粒少量	良好	内面:にぶい粒~ 輪 断面:にぶい粒~ 輪	

市町村・固有番号	登録番号	地区	透水層位	種類	器種	法面(cm)			重量(g)	持存率(部位)	植土	樹成	色調	備考
						口径	高さ	底径						
25 万葉固有番号16	164	1区 西側	人力掘削 3~4層	土製品	有溝土綿	(幅)4.4	(長さ)8.9+	(底さ)3.5+	(121.31)	60%	密 1mm以下~2mm くらいの石英少 量 (底さ)3.5cm位の 赤色焼化粧多量	良好	外表面:明赤褐~に ぶい赤褐 断面:黒褐	
26 万葉固有番号16	159	1区 西側	人力掘削 3~4層	土製品	管状土綿	(幅×横)0.8×0.8	(長さ)2.4+		(5.44)	50%?	密	良好	外断面:明赤褐~に ぶい赤褐	
27 万葉固有番号16	161	1区 東側	耕土	土製品	管状土綿	(幅×横)1.2×1.2	(長さ)3.1+		(3.52)	50%?	密 1~2mmの石英少 量	良好	外断面:淡赤棕	
28 万葉固有番号16	162	1区 西側	耕土	土製品	管状土綿	(幅×横)0.9×0.9	(長さ)3.7+		(1.98)	80%?	密	良好	外表面:にぶい赤棕 断面:赤棕	
29 万葉固有番号16	179	1区 西側	耕土	土製品	管状土綿	(幅×横)1.3×1.4	(長さ)3.7+		(5.18)	90%	密 細かい白色砂 岩微量	良好	外表面:にぶい粒~浅 黄砂岩 底面:淡黃粒	地表斑あり、耕土 き受け斑底
30 万葉固有番号16	156	1区 西側	人力掘削 3~4層	土製品	管状土綿	(幅×横)1.1×1.1	(長さ)3.9		(3.69)	90%	密	良好	外表面:にぶい白 色 断面:にぶい赤棕	
31 万葉固有番号16	206	1区 西側	耕土	土製品	管状土綿	(幅×横)1.1×1.1	(長さ)4.1		(4.40)	95%?	密	良好	外表面:粒~褐灰 断面:粒	
32 万葉固有番号16	156	1区 西側	人力掘削 3~4層	土製品	管状土綿	(幅×横)1.2×1.2	(長さ)4.1		(4.35)	98%?	密	良好	内表面:淡棕 外表面:粒~褐灰 断面:淡棕	
33 万葉固有番号16	162	1区 西側	耕土	土製品	管状土綿	(幅×横)1.2×1.2	(長さ)4.4		6.15	100%?	密	良好	外表面:粒	
34 万葉固有番号16	155	1区 東側	人力掘削 3~4層	土製品	管状土綿	(幅×横)1.8×2.0	(長さ)4.5		(13.93)	95%	密 細かい赤色焼 化粧少量	良好	外表面:灰白 断面:にぶい粒	
35 万葉固有番号16	214	1区	耕土	土製品	管状土綿	(幅×横)1.3×1.4	(長さ)5.8+		(9.28)	80%?	密	良好	外表面:にぶい粒 断面:粒	
36 万葉固有番号16	156	1区 西側	人力掘削 3~4層	土製品	管状土綿	(幅×横)1.5×1.5	(長さ)3.8+		(8.67)	70%?	密 細かい赤色焼 化粧少量	良好	内表面:粒 断面:にぶい粒	
37 万葉固有番号17	156	1区 西側	人力掘削 3~4層	土製品	管状土綿	(幅×横)1.0×1.2	(長さ)4.5+		(4.74)	90%?	密 細かい赤色焼 化粧少量	良好	内外表面:粒 断面:淡黃粒	
38 万葉固有番号17	155	1区 東側	人力掘削 3~4層	土製品	管状土綿	(幅×横)2.8×3.0	(長さ)7.1		67.00	100%?	密 細かい赤色焼 化粧少量	良好	内表面:灰白 外表面:灰白~灰	
39 万葉固有番号17	148	1区 東側	人力掘削 3~4層	土製品	管状土綿	(幅×横)3.1×3.3	(長さ)4.0		(35.03)	95%	密 細かい赤色焼 化粧少量	良好	外断面:灰白	
40 万葉固有番号17	101	2区	8 理土	浮生土部 or庄内	甕	-	2.2+	4.9	底部 70%	密 1~4mm位の 中量~ 2mm位の石英少 量	良好	外断面:灰白 外表面:明褐灰	反転復元	
41 万葉固有番号17	101	2区	8 埋土	製塙土部	-	-	1.8+	(4.1)	底部 20%	密 1~2 mmの チャート量	良好	外表面:灰白~明赤灰 断面:灰褐	反転復元	
42 万葉固有番号17	103	2区	8 埋土	製塙土部	-	-	2.3+	(4.6)	底部 50%	密 細かい赤色焼 化粧少量	良好	内表面:淡黃粒 外表面:にぶい粒 断面:赤棕	一部反転復元	
43 万葉固有番号17	101	2区	8 埋土	製塙土部	-	-	2.0+	(2.4)	30%	密 細かい赤色焼 化粧少量	良好	内表面:灰 外表面:粒	一部反転復元	
44 万葉固有番号17	101	2区	8 埋土	製塙土部	-	-	3.0+	2.8	底部 100%	密 細かい赤色焼 化粧少量	良好	内表面:粒 断面:灰	一部反転復元	
45 万葉固有番号17	102	2区	8 埋土	土製品	棒状土綿	(幅×横)1.2×1.3	(長さ)4.5+		(6.77)	50%?	密 1mm位の石英少 量、細かい赤色焼 化粧少量	良好	外表面:明赤褐 断面:粒~褐	一部反転復元
46 万葉固有番号17	93	2区	14 埋土	浮生	甕	-	2.0+	3.0	底部 95%	密 細かい白色砂 岩少量	良好	外表面:明赤褐 断面:粒~褐	一部反転復元	
47 万葉固有番号17	93	2区	14 埋土	浮生	甕	-	1.8+	(3.8)	底部 50%	密 1~4mmの石英 中量~ 1mm位の石英少 量	良好	内表面:灰灰 外表面:赤 断面:黑褐	反転復元	
48 万葉固有番号17	93	2区	14 埋土	土製品	甕	-	3.0+	3.2	底部 90%	密 1~4mmの赤色 焼化粧少量	良好	内表面:にぶい粒 外表面:灰~赤 断面:褐	反転復元	
49 万葉固有番号17	93	2区	14 埋土	土製品	甕	-	3.4+	(3.4)	50%下	密 1~3mmの赤色 焼化粈少合む	良好	内表面:明褐灰 外表面:にぶい粒~灰 断面:暗灰	反転復元	

樹種・固有 種類番号	地区	通積 層位	種類	群種	法量(㎝)		重量(g)	持水率 (部位)	地土	健成	色調	備考
					口径	路高						
50 玄参 固有種 17	93	2区	14 理土	製塩土部	—	—	1.6+	—	SMD以下	密 1mm位の赤色酸化粒多量	良好	内面:明赤褐 外面:明赤褐 断面:にがい相
51 玄参 固有種 17	105	2区	18 理土	土師部	密か?	—	3.3+	2.3	100% (底部)	密 1~3mm位の赤色酸化粒多量 灰色の灰色の小石 1種	良好	内面:灰白 外面:灰白 断面:灰白
52 玄参 固有種 17	105	2区	18 理土	土師部	濃か?	—	1.7+	2.4	80% (底部)	密 1~5mm位の赤色酸化粒多量	良好	内面:灰白 外面:にがい相~灰 断面:灰白
53 玄参 固有種 17	105	2区	18 理土	製塩土部	—	—	3.0+	(5.0)	40% (底部)	密 細かい赤色酸化粒中量	良好	内面:明灰黒 外面:にがい相 断面:浅黄褐~灰黒
54 玄参 固有種 17	105	2区	18 理土	製塩土部	—	—	2.3+	(5.8)	25% (底部)	密 細かい白色砂粒多量	良好	内面:— 外面:灰黒~淡赤褐 断面:灰白
55 玄参 固有種 18	76	2区	26	土師部	密	—	1.6+	2.5	底部 100%	密 1mm位の石英、 チャート少量、 細かい白色砂粒多量	良好	内面:にがい黄 外面:にがい相 断面:にがい相
56 玄参 固有種 18	137	2区	71 理土	土師部	質	(19.5)	4.8+	—	SMD以下	やや粗、1~6mm位 の石英、赤色酸化粒 多く含む	良好	内面:にがい相 外面:明灰黒
57 玄参 固有種 18	17	2区 E31・m1	人力耐削 3層	再生土部	密	—	2.8+	4.0	底部 100%	密 1~5mm位の石 英中量、1~3mm大 きな四角石量	良好	内面:にがい黄 外面:灰黄褐
58 玄参 固有種 18	52	2区 E3m1+2	精査 4層	再生土部	濃か?	—	2.1+	(4.6)	底部 25%	密 細かい白色砂 粒多量	良好	内外面:灰白 断面:灰黒
59 玄参 固有種 18	29	2区 E3m1	人力耐削 包含層	再生土部	濃か?	—	4.4+	(4.8)	50% (底部)	密 1~3mm位の赤 色酸化粒多量	良好	内面:にがい相~灰 外面:にがい相~灰 断面:にがい相
60 玄参 固有種 18	44	2区 E3m1	精査 4層	土師部	濃か	—	1.5+	3.2	底部 100%	密 1mm以下~2mm 位の赤色酸化粒中 量	良好	内面:明灰 外面:にがい相 断面:浅黄褐
61 玄参 固有種 18	51	2区 E3m1+12	精査 4層	土師部	濃か?	—	2.4+	3.6	100% (底部)	密 1~3mm位の石 英、チャート多量	良好	内面:灰白 外面:粉・黒褐 断面:灰白
62 玄参 固有種 18	41	2区 E3110	精査 4層	土師部	鉢か?	—	3.0+	(6.0)	30%?	密 1~3mm位の赤 色酸化粒多量	良好	内面:浅黄 外面:にがい相 断面:浅黄褐
63 玄参 固有種 18	42	2区 E3m12	精査 4層	土師部	鉢or密	—	1.8+	1.5	底部 100%	密 1~2mm位の石英 チャート中量	良好	内面:にがい黄 外面:灰白~オリ ーブ
64 玄参 固有種 18	48	2区 E3k+10	精査 4層	土師部	密	—	1.7+	3.0	100% (底部)	密 1~2mm位の赤 色酸化粒多量	良好	内面:浅黄褐 外面:にがい相 断面:灰黒
65 玄参 固有種 18	41	2区 E3110	精査 4層	土師部	鉢	—	2.8+	(3.5)	SMD以下	密 細かい赤色酸 化粒中量	良好	内面:灰白 外面:灰白 断面:灰
66 玄参 固有種 18	67	2区 E31+17	人力耐削 3層	土師部	器物or高 杯	(10.0)	2.5+	—	口盤部 25%	密 細かい赤色酸 化粒多量	良好	内外面:浅黄褐
67 玄参 固有種 18	61	2区 E31+J6	人力耐削 3層	土師部	かまど か?	—	3.2+	—	SMD以下	密 1~3mm位の石 英多量、最大3mm 位の赤色酸化粒少 量	良好	内面:にがい黄 外面:灰白
68 玄参 固有種 18	17	2区 E31+ml	人力耐削 3層	製塩土部	—	—	2.0+	(3.8)	底部 25%	密 細かい赤色酸 化粒多量	良好	内面:にがい相 外面:にがい相~相 断面:明灰黒
69 玄参 固有種 18	43	2区 E3m12	精査 4層	製塩土部	—	—	1.4+	3.2	底部 40%	密 1mm以下~2mm 位の赤色酸化粒少 量	良好	内面:灰白 外面:にがい相
70 玄参 固有種 18	51	2区 E3m1	精査 4層	製塩土部	—	—	2.9+	(3.4)	SMD以下	密 1mm位の赤色 酸化粒多量	良好	内面:灰白 外面:灰白 断面:灰白
71 玄参 固有種 18	51	2区 E3m1+12	精査 4層	製塩土部	—	—	2.3+	(4.5)	SMD以下	密	良好	内面:灰白 外面:灰白 断面:灰白
72 玄参 固有種 18	56	2区 E3m1	精査 4層	製塩土部	—	—	(1.7)	2.5+	底部 50%	密 1~2mmの石英 チャート少量	良好	内面:にがい相 外面:粉
73 玄参 固有種 19	62	2区	精査 4層	製塩土部	—	—	2.5+	2.0	底部 50%	密 細かい赤色酸 化粒中量	良好	内面:灰黒 外面:粉
74 玄参 固有種 19	43	2区 E3m12	精査 4層	製塩土部	—	—	2.6+	(2.7)	SMD以下	密 1~2mmの石英 チャート少量	良好	内面:にがい赤 外面:粉 断面:明灰黒~灰黒

考古学的・ 実用的 区分	登録 番号	地区	遺構 層位	種類	器種	法 面(cm)		重量(g)	残存率 (部位)	施土	焼成	色調	備考
						口径	高さ						
II-1 瓦質 圓盤 19	75 11	2区 E2n12	包含層 3~4層	輪埴土器	-	-	1.3+	(2.2)	50以下	1~2mmの石英 少量	良好	外表面にぶい粒 断面:灰灰	反転復元
II-1 瓦質 圓盤 19	76 43	2区 E2n12	粘合 4層	輪埴土器	-	-	1.7+	(2.3)	50以下	細かい赤色鐵 化粧少	良好	内表面:被灰 断面:黒褐色~褐灰	一部反転復元
II-1 瓦質 圓盤 19	77 37	2区 E2n12	側溝 抹土	須恵器	壺	-	5.3+	(10.2)	50以下	1mm位の石英少 量、1mm以下~2mm 位の黑色鐵化粧	良好	内断面:灰白 外表面:灰	反転復元
II-1 瓦質 圓盤 19	78 29	2区 E2n+10	人力削削 3層	須恵器	壺か	(15.2)	(4.0)	-	50以下	粗 細かい白色砂 少量、3mmの石 英引掛	良好	内外表面:灰 断面:灰・灰灰	反転復元
II-1 瓦質 圓盤 19	79 28	2区 E2n+10	人力削削 3層	須恵器	壺か	(19.8)	2.4+	-	50以下	細かい白色砂 少量	良好	内外表面:灰 断面:灰・灰灰	反転復元
II-1 瓦質 圓盤 19	80 17	2区 E2n+11	人力削削 3層	瓦器	桶	-	2.0+	(8.0)	50以下	細かい白色砂 少量	やや軟	内外表面:暗灰 断面:にぶい粒	反転復元
II-1 瓦質 圓盤 19	81 18	2区 E2n+10	人力削削 包含層	瓦器	桶	-	0.8+	(6.0)	馬台部 25%	1mm以下~1mm 位の赤色鐵化粧 少量	やや軟	内外表面:黄灰 断面:にぶい粒	反転復元
II-1 瓦質 圓盤 19	82 18	2区 E2n+10	人力削削 包含層	瓦器	桶	(11.7)	2.0+	-	口縁部 25%	密	やや軟	内外表面:暗灰 断面:灰白	反転復元
II-1 瓦質 圓盤 19	83 17	2区 E2n+11	人力削削 3層	瓦器	桶	-	3.3+	-	50以下	密	良好	内外表面:暗灰 断面:灰白	
II-1 瓦質 圓盤 19	84 17	2区 E2n+11	人力削削 3層	瓦器	桶	-	0.9+	(4.6)	50以下	密	やや軟	内外表面:にぶい粒 断面:灰	反転復元
II-1 瓦質 圓盤 19	85 17	2区 E2n+11	人力削削 3層	瓦器	皿	(7.2)	1.2	(6.0)	25%	1~2mmの赤色 化粧少	やや軟	内外表面:灰 断面:灰白	反転復元
II-1 瓦質 圓盤 19	86 17	2区 E2n+11	人力削削 3層	瓦器	皿	(8.0)	1.3+	-	50以下	1mm位のチャ一 ト少量	やや軟	内外表面:灰 断面:灰白	反転復元
II-1 瓦質 圓盤 19	87 21	2区 E2n+11~12	人力削削 3層	瓦器	皿	(7.2)	1.0	(5.20)	20%	密	やや軟	内外表面:灰	反転復元
II-1 瓦質 圓盤 19	88 20	2区 E2n12	人力削削 包含層 (束縛系)	須恵器 鉢か?	口こね 鉢か?	(26.0)	4.4+	-	口縁部 10%	1~2mmの石英 少量、細かい白色 砂鉄少	やや不 規則	内外表面:灰 断面:灰白	反転復元
II-1 瓦質 圓盤 19	89 59	2区 E2n12	側溝 3層	陶器 (端縁)	鉢か?	(28.3)	6.2+	-	50以下	1~2mmの石英 少量、細かい白色 砂鉄多く含む	良好	内外表面:青灰 断面:青灰~にぶい 粒	反転復元
II-1 瓦質 圓盤 19	90 19	2区 E2o13	人力削削	土製品	棒状土器	1.1×1.1 (長さ) 4.4+	-	(6.62)	50?	1~2mmの石英 少量	良好	外表面にぶい粒~ 断面にぶい粒	
II-1 瓦質 圓盤 19	91 10	2区 E2n13	3層か	土製品	管状土器	1.2×1.2 (長さ) 4.0+	-	(6.09)	50?	密	良好	外表面にぶい粒~ 断面にぶい粒	
II-1 瓦質 圓盤 19	92 11	2区 E2n12	3~4層 包含層	土製品	管状土器	3.0×3.1 (長さ) 5.2	-	(32.69)	80%	細かい赤色鐵 化粧少	良好	外断面:粒	

表3 小浦I遺跡・小浦II遺跡出土遺物観察表(石製品)

考古学的・ 実用的 区分	登録 番号	地区	遺構 層位	種類	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	残存率 (部位)	石材	色調	備考
II-1 瓦質 圓盤 20	93 150	1区 東側	人力削削 3~4層	石製品	砥石か	5.7	3.0	0.7	100%?	花崗岩	外表面:灰白~明褐色	小型砥石未製品か

表4 小浦I遺跡・小浦II遺跡出土遺物観察表(金属製品)

考古学的・ 実用的 区分	登録 番号	地区	遺構 層位	種類	器種	径 (cm)	厚 (cm)	残存率 (部位)	石材	色調	備考	
M-1 瓦質 圓盤 20	71 153	1区 東側	重要 3層	銅質 (生土)	元底過當	2.0×2.0	0.129	90%?	銅 中国製 外表面は人工的に削離されていると見られる			



1 小浦Ⅰ遺跡調査前（南から）



2 小浦Ⅱ遺跡調査前（南から）



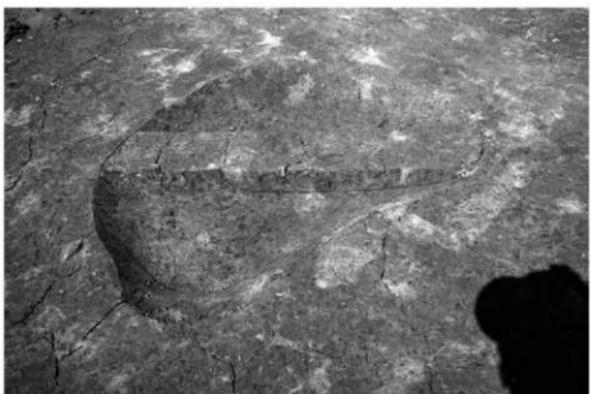
1 86 土坑土層断面
(東から)



2 87 土坑土層断面
(東から)



3 86・87 土坑完掘状況
(東から)



1 98 土坑土層断面
(東から)



2 98 土坑完掘
(東から)



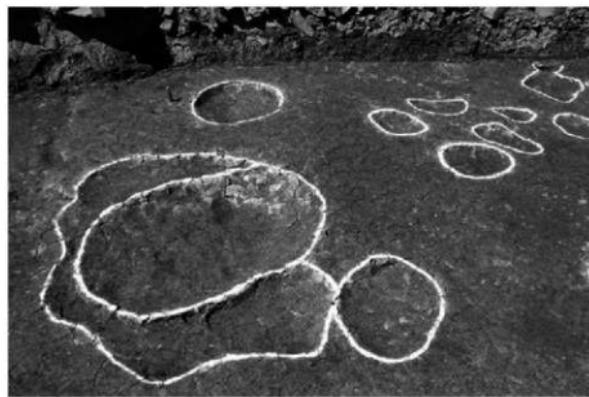
3 100 土坑土層断面
(西から)



1 100 土坑完掘（東から）



2 112・203 土坑北壁断面
(南から)



3 112・203-1 土坑完掘
(南東から)



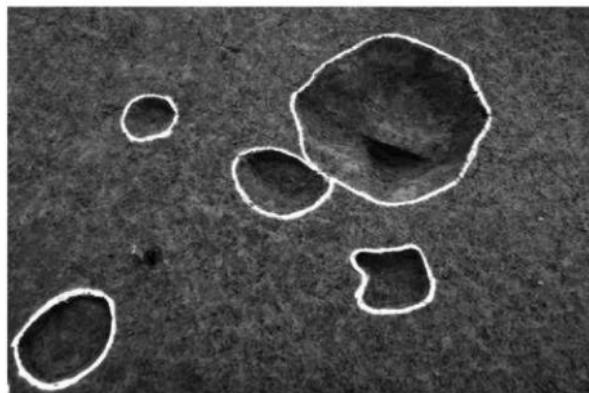
1 115 土坑土層断面
(南から)



2 115 土坑完掘
(東から)



3 125 土坑土層断面
(西から)



1 125 土坑完掘（東から）



2 126 土坑土層断面
(東から)



3 127 土層断面（東から）



1 126・127 土坑完掘
(東から)



2 1区下層確認トレンチ
西壁土層断面
(南東から)



3 8落ち状遺構南ベルト
土層断面 (南西から)



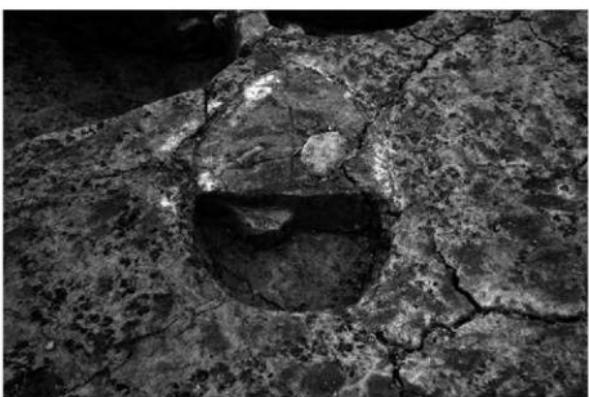
1 8 落ち状遺構完掘
(北から)



2 14 土坑土層断面1
(南東から)



3 14 土坑土層断面2
(北西から)





1 16 土坑土層断面
(南から)



2 17 土坑土層断面
(南東から)



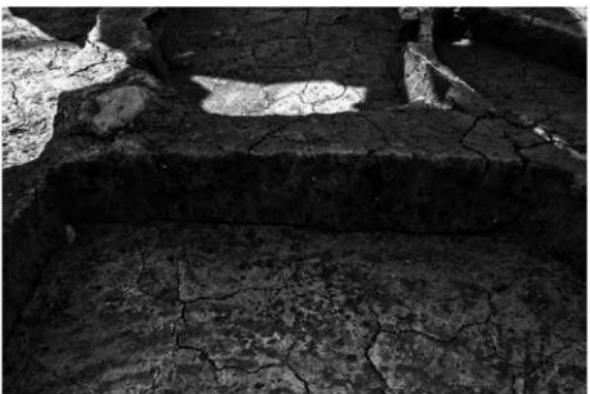
3 18 土坑断面 I
(南西から)



1 18 土坑土層断面 2
(北東から)



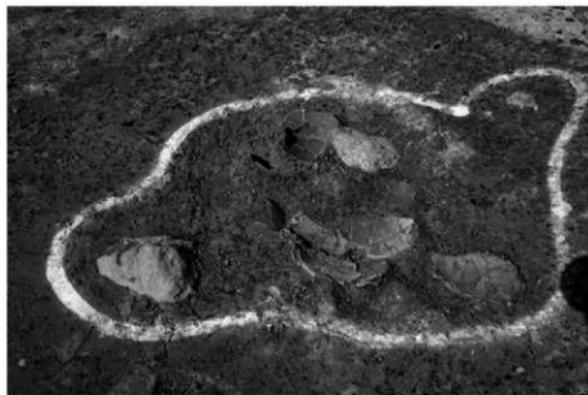
2 19 土坑土層断面
(南から)



3 21 土坑土層断面
(東から)



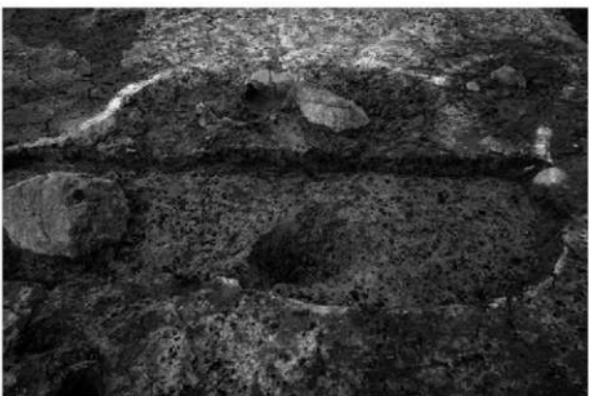
1 14・18・21 土坑完掘
(東から)



2 26 土坑 遺物出土状
況 (西から)



3 26 土坑 遺物出土状
況 (北から)



1 26 土坑土層断面
(南から)



2 61 小穴土層断面
(南から)



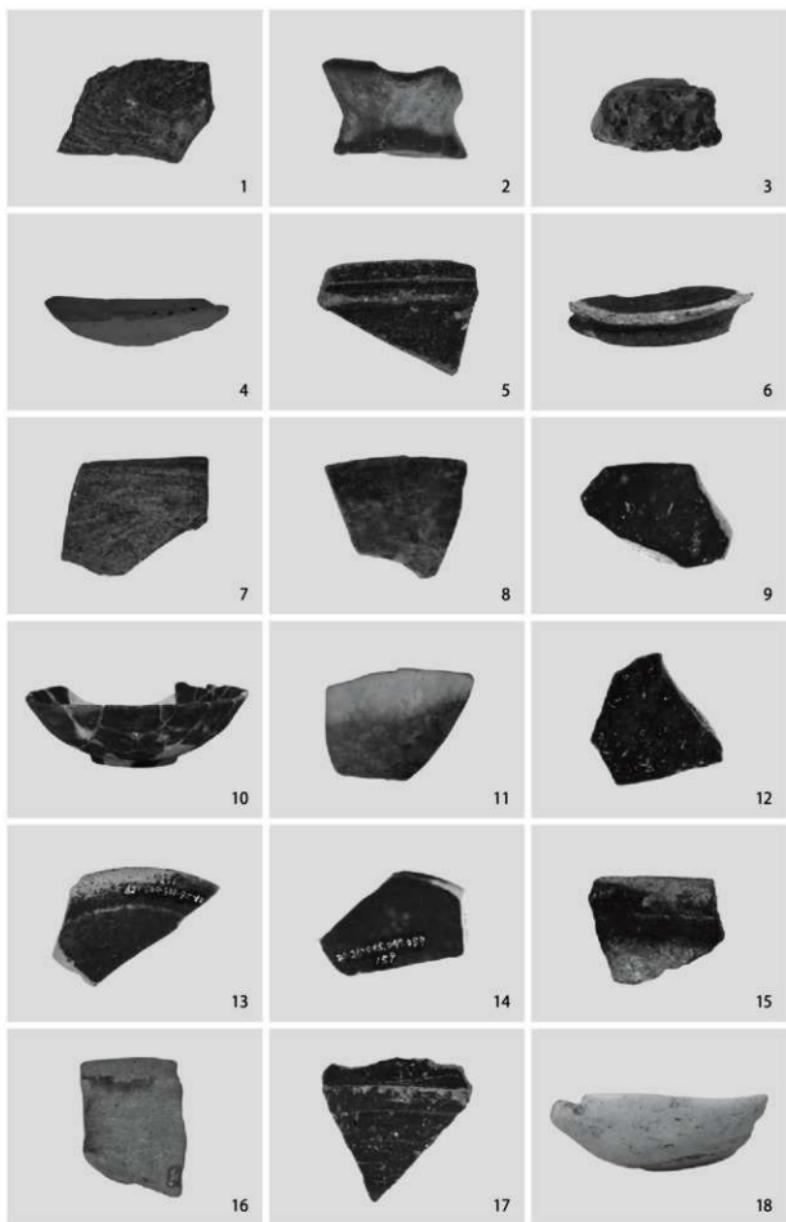
3 71 土坑土層断面
(東から)



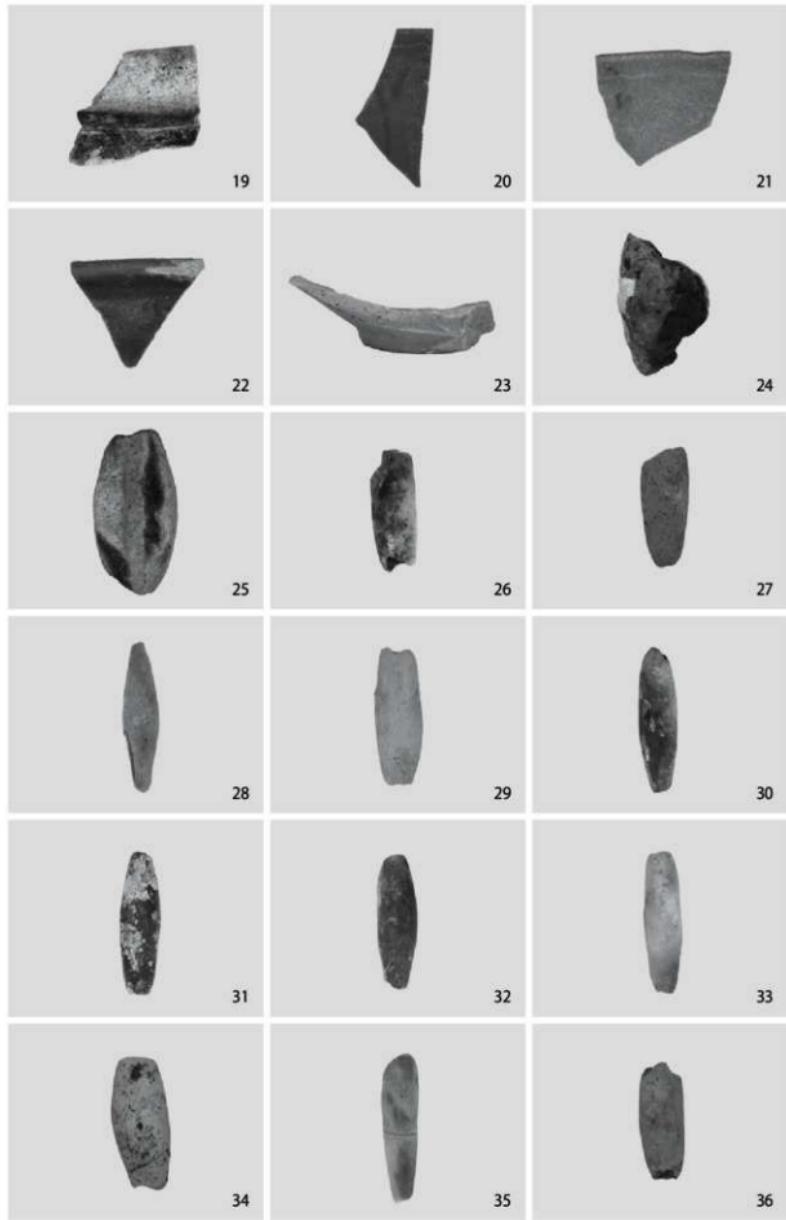
1 2区下層確認トレンチ
東壁断面（南西から）



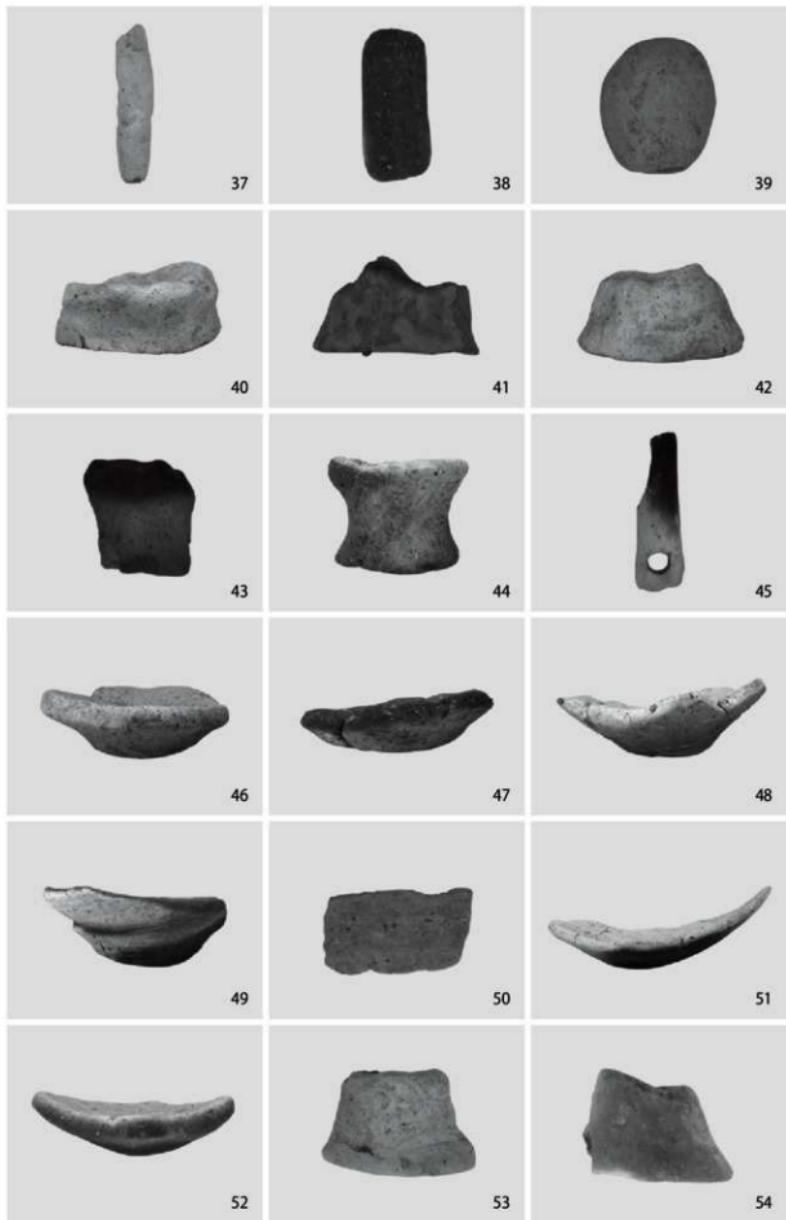
2 2区下層確認トレンチ
東壁断面（西から）



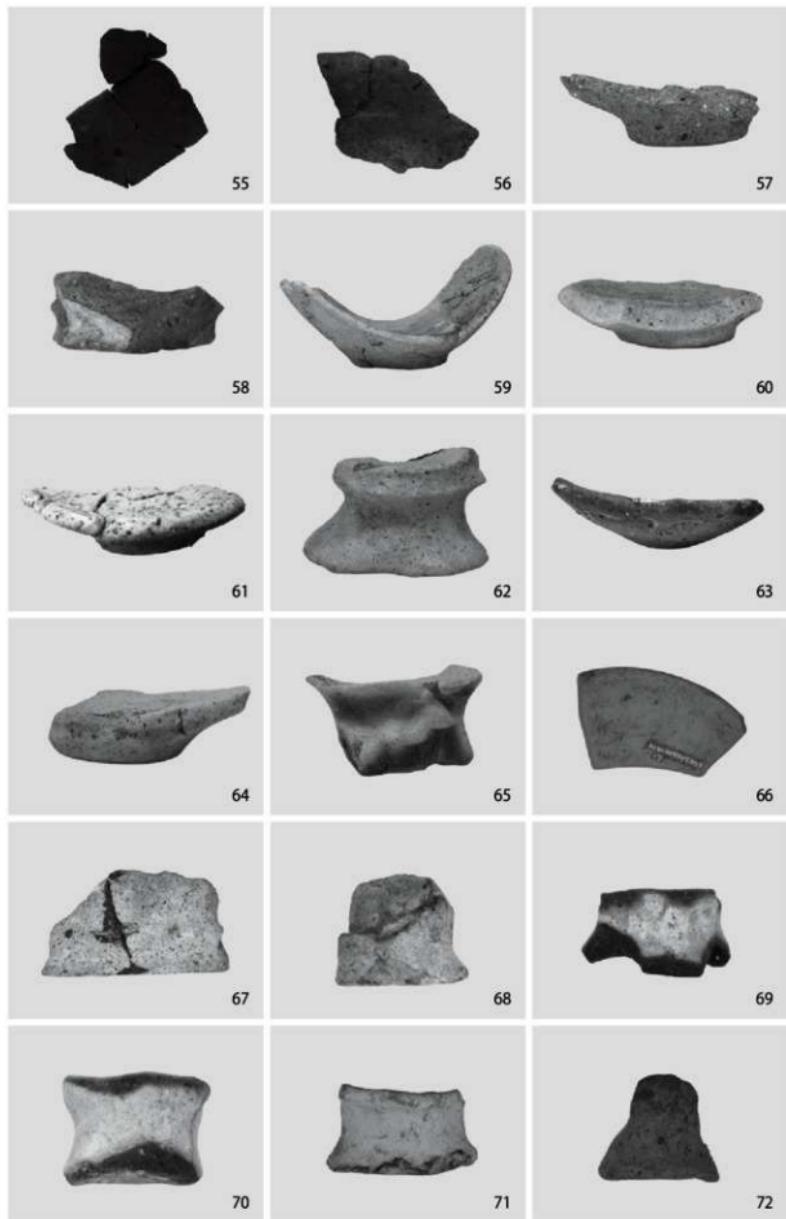
出土遺物（1）



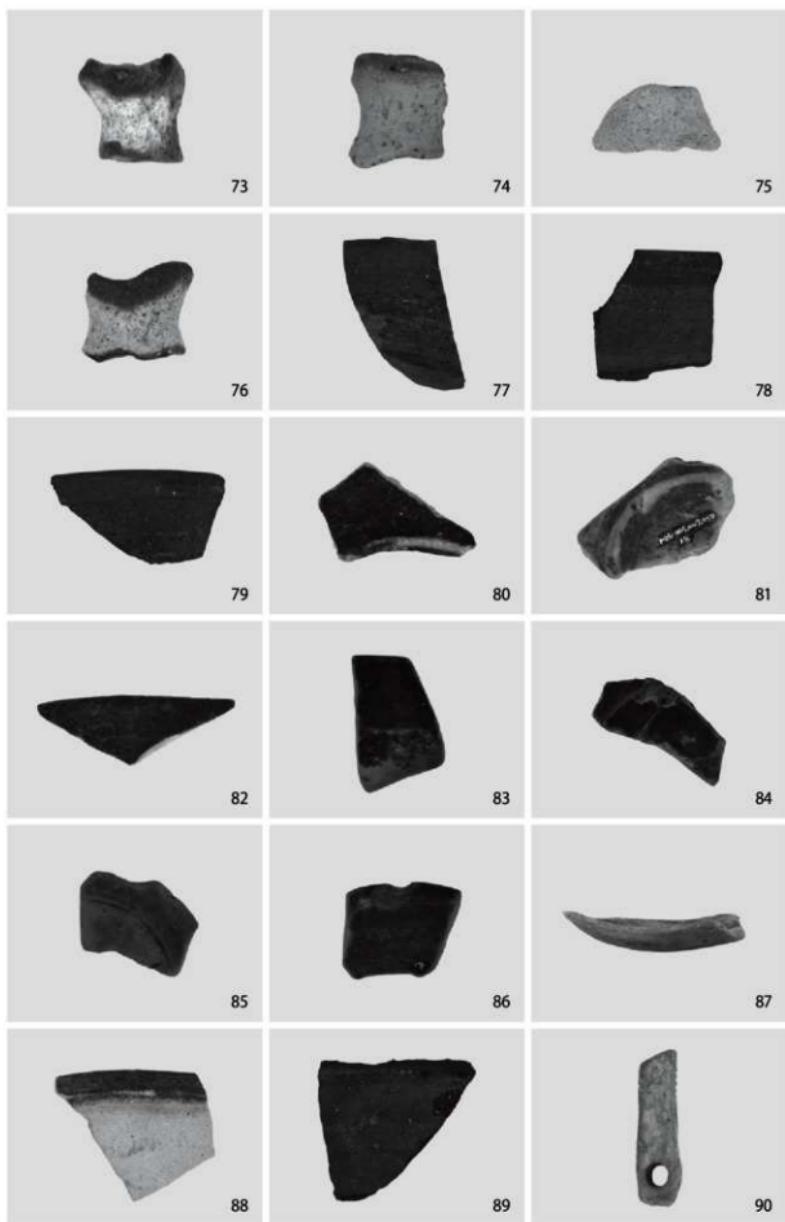
出土遺物（2）



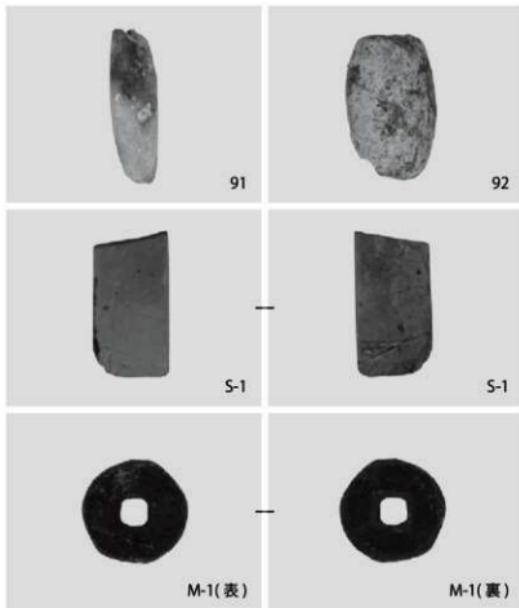
出土遺物（3）



出土遺物（4）



出土遺物（5）



出土遺物（6）

報告書抄録

小浦Ⅰ遺跡・小浦Ⅱ遺跡

－中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書－

発行年月日：2023年3月10日

編集・発行：公益財団法人和歌山県文化財センター
和歌山県和歌山市岩橋1263番地の1

印刷・製本：白光印刷株式会社
和歌山県和歌山市雜賀崎2021-3